# MICRO CADAM Helix 実践操作解説書

# 出力設定ガイド(応用設定)

2020年6月 株式会社CAD SOLUTIONS

CAD SOLUTIONS Inc.

© 2020 CAD SOLUTIONS Inc.

### 目次



#### 【スタンドアローン編】

- 第一章 カラー出力設定例 1. カラー出力設定のポイント 2. カラー出力設定
- 第二章 長尺出力設定例
  - 1. 長尺出力設定のポイント
  - 2. 長尺出力設定
- 第三章 縮小出力設定例
  - 1. 縮小出力設定のポイント
  - 2. 縮小出力設定
- 第四章 イメージ付き図面の出力設定例 1. イメージ付き図面の出力設定のポイント 2. イメージ付き図面の出力設定
- 第五章 アウトラインフォントでの出力設定例 1. アウトラインフォントを使用して出力設定のポイント 2. アウトラインフォントを使用して出力

#### 【ネットワーク編】

- 第一章 カラー出力設定例
  - 1. カラー出力設定のポイント
  - 2. カラー出力設定

- 第二章 長尺出力設定例
  - 1. 長尺出力設定のポイント
  - 2. 長尺出力設定
- 第三章 縮小出力設定例 1. 縮小出力設定のポイント 2. 縮小出力設定
- 第四章 イメージ付き図面の出力設定例
  - 1. イメージ付き図面の出力設定のポイント
  - 2. イメージ付き図面の出力設定
- 第五章 アウトラインフォントでの出力設定例
  1. アウトラインフォントを使用して出力設定のポイント
  2. アウトラインフォントを使用して出力

#### 【参考資料】

- 1. 出力コマンド解説
- 2. カラー出力で使用する色の定義方法
- 3. 出力コマンドと出力方式の関係
- 4. 出力方式の設定例(3. の解説)
- 5. RPDによる出力の模式図
- 6. 用語解説



# スタンドアローン編

# はじめに



- 本資料の目的
  - 『MICRO CADAM Helix 実践操作解説書 ファンクション <出力> (基礎設定:スタンドアローン 編)』の知識を前提に、RPD Standaloneを使用した種々の出力設定方法を解説した資料です。

#### ■ 前提条件

- Windows版MC Helix 20xxの環境であること。
- MC V3, V4関連の記述は含まれません。
- MICRO CADAM RPD Standaloneがインストールされている環境であること。
- 画面イメージはWindows 7ですが、他のWindows OSでも同じ手順です。

#### ■ 留意事項

- 各設定におけるパラメーター、キーワードの詳細については、以下のマニュアル類をご参照ください。
  - 管理・運用解説書
  - ▶ ラスター・プロッター・ドライバー解説書
- 解説中下記の設定値はあくまでも設定例ですので、下記のパラメーターについてはセットアップする環境に応じて読み替えてください。
  - 「RPD環境設定ユーティリティーの設定」でのPLT1~5、COM1~5及びMCRPD1~5.SYSの 番号の部分

当資料の内容は、2015年6月時点(MICRO CADAM Helix 2015R3)の機能をベースに記述しております。 また、OSはWindows7です。 今後の機能改善・追加によっては記述内容が変更される場合があります。



# 第一章 カラー出力設定例

1. カラー出力設定のポイント



- 1. カラー・モードの場合、出力パラメーター・ファイルに以下の指定が必要です。
  - 設定ダイアログの場合
    - 1. ファンクション <出力> 【出力装置】で出力を行う装置を選択
    - 2. 【パラメータ】で表示されるダイアログ・ボックスの [出カパラメーター] を選択
    - 3. [プロッター] シートの [ペンの指定方法] で「カラー」を選択
    - 4. [色情報を付加する]を選択
  - テキストファイル(~.PRM) 編集の場合
    - CLM = 1 : カラー・モードにする
    - ECL = ON: カラー・テーブル情報を出力する(ラスター・プロッターに対して有効)
- 2. カラー・モードの指定(CLM = 1)により、参照する「線の太さごとに使用するペン番号」の指定が変わります。
  - 設定ダイアログの場合
    - 1. ファンクション <出力> 【出力装置】で出力を行う装置を選択
    - 2. 【パラメータ】で表示されるダイアログ・ボックスの [出力パラメーター] を選択
    - 3. [プロッター] シートの [ペン制御] → [カラー] で線幅(太線、中線、細線) 及び注記の「色番号」と 「ペン番号」を選択
  - テキストファイル (~.PRM) 編集の場合

(設定例)

- PCC1 = 1,2,3,4,5,6,7,8,8,8,8,8: カラー・モードでの太線の色番号ごとに使用するペン番号を指定
- PCC2 = 1,2,3,4,5,6,7,8,8,8,8,8: カラー・モードでの中線の色番号ごとに使用するペン番号を指定
- PCC3 = 1,2,3,4,5,6,7,8,8,8,8,8: カラー・モードでの細線の色番号ごとに使用するペン番号を指定
- PCC4 = 1,2,3,4,5,6,7,8,8,8,8,8: カラー・モードでの注記の色番号ごとに使用するペン番号を指定



- 3. RPD環境設定ファイル「MCRPDn.SYS」に以下の指定が必要です。
  - 設定ダイアログの場合
    - 1. 「RPD環境設定ユーティリティー」で「MCRPDn.SYS」を選択
    - 2. [処理方法]シートの [カラーの出力方法]→ [出力方式] で、「テーブル参照方式」, 「3原色算定方式」, 「色を線幅に変換する」のいずれかを選択
    - 3. 手順2. で「テーブル参照方式」を選択した場合、 [色出力データ定義ファイルのパスとファイル名] で「参照」 ボタンを選択してファイル名を選択
  - テキストファイル(MCRPDn.SYS)編集の場合

(設定例)

- RPCTYPE = 0
   0:カラー出力の際、個々の色を"テーブル参照方式"で指定
  - 1:カラー出力の際、個々の色を"3原色算定方式"で指定
  - 2:カラー出力の際、個々の色を"色を線幅に変換する"で指定
- RPCTBL = 0 カラー出力で使用する出力色データ定義ファイルをパスで指定 (「RPCTYPE=0」の場合のみ有効です)

プロッターに出力する色を決定する方法は下記の2種類がありますが、プロッターによって異なります。

・テーブル参照方式

・3原色算定方式

詳細については、「第六章 2. カラー出力で使用する色の定義方法」をご参照ください。

- 4. GDI出力の場合
  - GDI対応プリンター出力モジュール(MCPRTW.EXE)ではカラー出力はできないため、MCRPD.EXEが必要となります。
  - Windowsのプリンター機能を使用しますので、出力方式は印刷キュー経由の出力(スプール)のみになります。



#### 仮想出力装置テーブル「MCVOD.TBL」の設定

- 1. (システム区画):¥:MCADAMフォルダ内の「MCVOD.TBL」ファ イルを、テキスト・エディタで開く
- 2. 以下の4つのキーワードを設定する
  - DEV:出力装置の名称(任意)を半角英数8文字以内で指定 (例) PLOT01
  - PRM:適用する出力パラメーター・ファイルのパスとファイル 名を指定
    - (例) C:¥MCADAM¥PENPLT1.PRM

デフォルトでインストールされているサンプルファイルで は、このキーワード「PRM」の先頭に「\*」(コメントア ウト)が付いていますので削除してください。

- CLS: "PEN"または"PRN"を指定

RPDを使用する場合は必ず"PEN"を指定します。

- COM: プロッター名など出力装置についてのコメントを指定 (例)"カラー出力"

二重引用符号で囲って半角英数換算で40文字以内で指定してください(2バイト文字使用)。

3. ファイルを保存→閉じる

・最大256台の出力装置の設定が可能です。 ・仮想出力装置を追加するには、上記4つのキーワードをコピーして追加してください。





### 出カパラメーター・ファイル「~.PRM」の設定

1. 「MCVOD.TBL」のキーワード「PRM」で指定した出カパラメー ター・ファイル(例: PENPLT1.PRM)をMCADAMフォルダに作成

サンプルファイルをコピーすると便利です。 PRMのサンプルファイルはMC導入ディレクトリー内 (例:C:¥mchelix¥HDD)の「SAMPLE」フォルダ内にあ ります。

- MC Helixの <出力 (PLOT)> 【パラメータ (PARM)】で"出力装置" ダイアログを開く
- 3. 「MCVOD.TBL」のキーワード「DEV」で指定した出力装置名 "PLOT01"をSEL
- 4. [出力パラメーター] をSEL
- 5. 「共通」シート→「出力装置」の"PLT1"をSEL
- 6. 「プロット・ファイルの作成場所」にプロット・ファイル(~.OFI) の格納場所を指定する

#### (例) C:¥MCADAM

- 7. 「プロット・サーバーを使って出力する」のチェックを外す
- 8. [プロッター] シート→ [ペンの指定方法] で"カラー"をSEL
- 9. [色情報を付加する] にチェックを付ける
- 10. [OK] をSEL
- 11. [出力パラメータの保存]をSEL
- 12. [OK] で保存

力装置				? >
仮想出力装置名	PLOT01	Ţ	0K	
NAME AND A DESCRIPTION				
出力装置の機種	7 ግን ም		キャンセル	
אלאב			単力で与な	.b
カラー出力				<u>/</u>
			出力パラメータ	の保存
1			^///7*	
<b>リハ*ラメーター</b>				?
共通    1ッター  フリンター	[Dure	•	100	1 ок
出力装置	PLT1  個数する	■ 図面の拡大/縮小	100 🗄 x	
破線の長さ	2	=		44720
矢頭の長さ	8.0			
矢視の矢頭の長さ		マ プロット・スケールをかけ	12	
ハッチンケ線の間隔	2	_		
ハッチンゲの線幅	細線	•		
文字ボックスの線幅	中線	•		
出力枚数	1			
出力の種類	正式図	•		
エラー発生時の処理	次の図面の処理(	移る 💽		
プロット・ファイルの作成場所	C¥MCADAM		参照	
□ 図面枠のスケールをフロット・	データのスケールに合わせる	🔽 ንግንԻንን	イルを削除する	
□ プロット・サーバーを使って出	力する	□ 図面枠キ~	-ワードを出力する	
▼ PDFファイルの透かし文字と	として出力する			<u>^⊮7*</u>
11/73-9-				<u> </u>
共言 2127年 7929-1	0.20	^^/制御		1 ок 1
生りつかし縁の増加者	0.20 ★約			
12010000000000000000000000000000000000	7-k <sup>2</sup>	線種 実線(太)	▼ ^り番号 1 ▼	キャンセル
フォンドルパ里大川				
211-20-の操作方注	自動 🔽	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	10.00 A	
す字や小	D	又子列入 333.330		
ペノの指定方法	75-	<u>⊅</u> ⊅−		
「ハージ・アー」を出力する	,	線幅 太線	<b>_</b>	
A SEE HOLE REPORT	G4	色番号 1 💌	^℃番号 1 💌	
☑ 色情報を付加する		(注:12		
○ 色情報を付加する □ □ □ ケオン・2 - サーロを塗きジ	ut:	注記	^?/番号 1 ▼	
☑ 色情報を付加する □ ログオン・ユーザーDを書きジ □ ログオン・ユーザーDを書きジ	145 #37.47	注記 色番号 1 👤	^?#号 1 ▼	

^>/番号 1 ▼

7℃1ッターのヘン圧 ヘン番号 1 ▼ ベン速度

ベン圧

^⊮7°



### ハードコピー環境設定ファイル「MCHC5.SYS」の設定

- 1. 「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- 2. 「ファイル」→「MCHC5.SYS」→MCADAMフォルダー内の 「MCHC5.SYS」をSEL
- [MCHC5.SYS] ボタン→ [RPD関連] シート→ [プロッター] で "PLT1"をSEL
- 4. [ポート]を指定

この例では"COM1"を指定します。

指定されたポート番号により、参照するRPD環境設定ファイ ル名が決定されます。 「COM1」を指定した場合、「MCRPD1.SYS」を参照します。

5. [パスとドライバー名] でmcrpd.exeのパスを指定 (例: C:¥mchelix¥rpd¥mcrpd.exe)

■ RPD境現設定ユーティリティー [CFMCADAMFMCHC5.5Y5] コップレ(F) ツール(T) 事売(A ANDYN).	
MCRPD.SYS MCHC5.SYS M PPS5.SYS	
RPD関連 その他	
コカール大学の設定	
710-7%- PLT1 I	
「 プロッター固有のコマンドを使用する	
▶ 塗りつぶす領域の輪郭線を出力しない	
π*−k COM1	通信速度 9600 💌
型式 紙のサイズ べつの本数	
##種 HP7585B HP7595B A0以下 8	
NT25-KIST N-42 C¥mchelix¥RPD¥MCRPD.EXE	
漢字フォント・ファイル VSS ▼ C¥MCADAM	参照
OLEオフシェクトの出力解像度 200	
1 1/7*4	



## RPD環境設定ファイル「MCRPDn.SYS」の設定

1. 新しいプロッターに使用する「MCRPDn.SYS」を¥MCADAMフォル ダ内に作成

ここでは"MCRPD1.SYS"を作成します。

MCADAMフォルダ内の「MCRPD.SYS」をコピーして使用 すると便利です。

「MCRPDn.SYS」の"n"は「MCH( 「PLT」で指定されたポート番号	C5.SYS」のキーワード 「COMn」と同じ番号で
作成してください。	
(例)	
ポート番号がCOM <b>1</b> の場合:	MCRPD1.SYS
ポート番号がCOM <b>2</b> の場合:	MCRPD2.SYS
ポート番号がCOM <b>3</b> の場合:	MCRPD3.SYS
ポート番号がCOM <b>4</b> の場合:	MCRPD4.SYS
ポート番号がCOM <b>5</b> の場合:	MCRPD <b>5</b> .SYS

2. 「RPD環境設定ユーティリティー」のメニュー・バー [ファイル] →「MCRPDn.SYSを開く」をSEL

上記で準備した「MCRPD1.SYS」を開きます。

「一日」			×
💮 💮 🌗 אל-ם - אין בארב - אין	ディスク (C:) 🔹 MCADAM 👻 🛛 👻 🏠	MCADAMの検索	2
整理 👻 新しいフォルダー			- 🔳 🔞
👉 お気に入り 🔺	名前 ▲	更新日時	種類
三 デスクトップ	퉬 support	2015/07/09_	ファイル フォルダー
📃 最近表示した場所	🐌 SXF	2015/03/31_	ファイル フォルダー
🎉 ダウンロード	퉬 SYS	2015/03/31_	ファイル フォルダー
🚞 ライブラリ	\mu vmnu	2015/03/31_	ファイル フォルダー
F#1X2F	li warmf	2015/03/31_	ファイル フォルダー
■ ピクチャ		2010/07/22_	313 /71/
EFT	MCRPD1.SYS	2015/08/16_	SYS ファイル
J) ミュージック	MCBBD1SVS	2015/07/21	SVS 7=4 II.
🜏 ホームグループ 🚽 🚽	MCRPD3.SYS	2015/07/21_	SYS ファイル
	MCRPD4.SYS	2015/05/28_	SYS ファイル
	MCRPD5.SYS	2015/05/28_	SYS ファイル 🖵
🛀 ローカル ティスク (C:)	•		Þ
ファイル名(N):	MCRPD1.SYS	MCRPD Files (MC	RPD*.SYS) 🔻
		聞<(○) ▼	キャンセル

3 RPDI環境設定2-7(リティー		*
ファイル(F) 表示(V) ヘルブ(I	H)	
	2 <b>2</b>	
MOREDSYS M HOSSYS	MCPPSISYS	
	RPD環境設定1-ティリティー - [C:¥MCADAM¥MCRPD1.SYS]	
	774%(F) 9-%(T) 表示(V) 1/67"(H)	
	MORPDSYS MOPPSSYS	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	<u>(ロルノクスス)</u> 出ノ1展置 2907%情報 処理方法 線種 文字 文字線幅 HE  HE(^%) その他	<b>^</b>
	172K008km	
	使用する372/hの種類 HP-GL ・ HP-GL372/hの制御	
	199-1976の11/1/1 121/2007R 121/2007R 121/2007R 121/2007R	
	- デール・コマントの付加 区切りコード(:)を出力する	
		_
	1 ШЛ #660P37//* Ан:	
	出力の制御	
	出力方式 ジブル・ボート(RS232C) ▼ 出力先 参照	
	- パウット・フロトコル(TCP/IP) - 応答待ち時間(CP/IP、FTP) - 応答待ち時間(CP/IP) - 応答待ち時間(CP/IP) - 応答待ち時間(CP/IP)	
	10 10-SCAN ▼ 1	
	133节回航 5	
σ.(	出力は有の作業領域(FTP) C#mchelix#RPD 参照	
	1	



[MCRPD.SYS] ボタン→ [出力方式] シート→ [コマンドの制御]
 → [使用するコマンドの種類] で出力コマンドをSEL

カラー出力の場合、全ての出力コマンドが選択可能です。

「出力の制御」で、選択した出力コマンドに対応した「出力方式」
 と「出力先」を指定
 (例)ファイル出力、C:¥MCADAM

「出力方式」と「出力先」の設定については、「第六章 3. 出力コマンドと出力方式の関係」および「第六章 4.出力方 式の設定例(3. の解説)」をご参照ください。

5. [処理方法] シート→ [カラーの出力方法] → [出力方式] が "テーブル参照方式"を指定した場合、 [色出力データ定義ファイル のパスとファイル名] も指定

[使用するコマンドの種類] に「CGM」及び「GDI」以外 を指定した場合は、色の定義方法の指定が必要です。 詳細は、「第六章 2. カラー出力で使用する色の定義方法」 をご参照ください。

 [ファイル] → [アプリケーションの終了] で編集した 「MCRPD1.SYS」と「MCHC5.SYS」を保存→閉じる

マ RPD環境設定2→7/7ティー [C:¥MCADAM¥MCRPD1SYS]     ファ/KF) クールT 表示() ヘルプ(H)	
<i>፼፼፼</i> ፼፼፼፼፼	
MCRPDSYS WOHOSEAYS MOPPISSEAYS	
出力方式 世力装置   スタッフ 階級   処理方法   線種   文字   文字線幅   HIE   HIE (ハウ)   その他	1
172/ドの制御     (伊井GL/2+RTL)       172/ドの制御     HP-GL/2+RTL)       173/ドの制御     エミローなり経財       175-172/ドの計加     アールコマンドの計加       パスとフィ(ふ名)     参照       1732/ドの計加     ビロコーンド(3)を出力する       1732/ドの計加     ビロコーンド(3)を出力する       1732/ドの計加     田田市大(2)を出力する       1735E0F372/ド     本F*	
5款行回款     5       出力時の/作業領域(FTP)     O¥mchelixVRPD       571     ●	







1.長尺出力設定のポイント



- 長尺の定義
  - たとえばA1長尺図面と判断する条件は、プロット・データの短い方がA1サイズの高さの キーワード「RPSIZE1」で 指定した高さ以下であり、長い方がA1サイズの幅のキーワード 「RPSIZE1」で指定した幅以上である場合です。 つまり、高さはA1で、幅がA1サイズを超えるようなプロット・データをA1長尺図面とします。

#### 2. 長尺出力設定例

- A1プロッターに対してRPDから長尺出力をする場合、「MCRPDn.SYS」のパラメータの次の4つの全てを満たせば 正しく長尺出力されます。
  - 1. RPSIZEO の指定が無く、RPSIZE1 が最大有効作画範囲となっている
  - 2. RPSIZE1 で設定された短辺の長さ
- ≧ プロット・データの短辺の長さ
- 3. RPSIZE1 で設定された長辺の長さ
- ≤ プロット・データの長辺の長さ
- 4. RPLMAX で設定された長尺図面の最大プロット長 ≧ プロット・データの長辺の長さ

 長尺出力は、A1 サイズ以上のプロッターに限られ、「MCRPDn.SYS」でキーワード「RPSIZE0=(A0サイズの 指定)」またはキーワード「RPSIZE1=(A1 サイズの指定)」で用紙サイズを指定する必要があります。

- 長尺図面の最大長は、プロッター自体でも設定されています。
   実際に採用される値は、長尺図面の長さキーワード「RPLMAX」とプロッター自体で設定された長尺図面の最大長の短いほうが採用されます。
   したがって、長尺図面の長さキーワード「RPLMAX」の値を大きくしても途中で切れてしまう場合は、プロッター側で設定されている値を確認していただく必要があります。
- 長尺出力は、プロッターの機種によって制約があります。最大長の制限、設定方法については、使用するプロッターの説明書を参照してください。

GDI出力時は、長尺図面の印刷ができません。



#### 仮想出力装置テーブル「MCVOD.TBL」の設定

- 1. (システム区画):¥:MCADAMフォルダ内の「MCVOD.TBL」ファ イルを、テキスト・エディタで開く
- 2. 以下の4つのキーワードを設定する
  - DEV:出力装置の名称(任意)を半角英数8文字以内で指定 (例) PLOT02
  - PRM:適用する出力パラメーター・ファイルのパスとファイル 名を指定

(例) C:¥MCADAM¥PENPLT2.PRM

デフォルトでインストールされているサンプルファイルで は、このキーワード「PRM」の先頭に「\*」(コメントア ウト)が付いていますので削除してください。

- CLS: "PEN"または"PRN"を指定

RPDを使用する場合は必ず"PEN"を指定します。

 COM: プロッター名など出力装置についてのコメントを指定 (例) "長尺出力"

二重引用符号で囲って半角英数換算で40文字以内で指定してください(2バイト文字使用)。

3. ファイルを保存→閉じる

・最大256台の出力装置の設定が可能です。 ・仮想出力装置を追加するには、上記4つのキーワードをコ ピーして追加してください。

■ MCVOD.TBL - メモ帳 ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) 表示(V) ヘルブ(H)	<u>×</u>
DEV = PLOT02 PRM = C:¥MCADAM¥PENPLT2.PRM CLS = PEN	▲ * MAX 8 byte
COM = "長尺出力"	∗ MAX 40 byte _
DEV = PLOT03 PRM = C:¥MCADAM¥PENPLT3.PRM CLS = PEN	∗ MAX 8 byte
COM = "縮小印刷"	∗ MAX 40 byte



### 出カパラメーター・ファイル「~.PRM」の設定

1. 「MCVOD.TBL」のキーワード「PRM」で指定した出力パラメーター ・ファイル(例: PENPLT2.PRM)をMCADAMフォルダに作成

サンプルファイルをコピーすると便利です。 PRMのサンプルファイルはMC導入ディレクトリー内 (例:C:¥mchelix¥HDD)の「SAMPLE」フォルダ内にあ ります。

- MC Helixの <出力 (PLOT)> 【パラメータ (PARM)】で"出力装置" ダイアログを開く
- 3. 「MCVOD.TBL」のキーワード「DEV」で指定した出力装置名 "PLOT02"をSEL
- 4. [出力パラメーター] をSEL
- 5. 「共通」シート→「出力装置」の"PLT2"をSEL
- 6. 「プロット・ファイルの作成場所」にプロット・ファイル(~.OFI) の格納場所を指定
  - (例) C:¥MCADAM
- 7. 「プロット・サーバーを使って出力する」にチェックを外す
- 8. [OK] をSEL
- 9. [出カパラメータの保存] をSEL
- 10. [OK] で保存

出力装置		<u>? ×</u>
仮想出力装置名	PLOT02	ОК
出力装置の機種	7	キャンセル
		出力パラメーター
		出力パラメータの保存
		<u>^ルフ°</u>
ļ '		

出力パラメーター		<u>?×</u>
共通   ロッター   フランター		
出力装置	PLT2 図面の拡大/縮小 100 🚽 🗴	ОК
出力範囲の調整	調達する	キャンセル
破線の長さ	3	
矢頭の長さ	4.0	
矢視の矢頭の長さ	3.0	
ハッチング線の間隔	3	
ハッチングの線幅	中線	
文字ボックスの線幅	太線	
出力枚数	2	
出力の種類	正式図	
エラー発生時の処理	処理を中止する	
プロット・ファイルの作成場所	C:¥MCADAM 参照	
□ 図面枠のスケールをプロット・デ	-タのスケールに合わせる 🔽 プロット・ファイルを削り除する	
□ プロット・サーバーを使って出力	する 🔽 図面枠キーワートを出力する	
▼ PDFファイルの透かし文字とし	て出力する	^ルフ°



## ハードコピー環境設定ファイル「MCHC5.SYS」の設定

- 1. 「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- [ファイル] → [MCHC5.SYS] → MCADAMフォルダー内の [MCHC5.SYS] をSEL
- [MCHC5.SYS] ボタン→ [RPD関連] シート→ [プロッター] で "PLT2"をSEL
- 4. [ポート] を指定

この例では"COM2"を指定します。

指定されたポート番号により、参照するRPD環境設定ファイ ル名が決定されます。 「COM2」を指定した場合、「MCRPD2.SYS」を参照します。

5. [パスとドライバー名] でmcrpd.exeのパスを指定 (例: C:¥mchelix¥rpd¥mcrpd.exe)

RPD環境語空フーテルティー - [C+RMCADANKMCHC5SVS]	
ファイル(E) ソール(D) 表示(V) ヘルブ(H)・	
ØØØ 🖉 🖉 🖾 🖉	
MCRPD.SYS M PPS5.SYS	
RPD開連 石の他	
□ ブロッター固有のコマントを使用する	
□ 塗りつぶす領域の輪郭線を出力しない	
ポート COM2 ■ 通信速度 9600 ■	
型式 紙のサイズ ヘツの本数	
機種 HP7585B,HP7595B A0以下 8	
パなとドライバー名 C¥mchelix#RPD#MCRPDEXE 参照	
演宇フォント・ファイル VSS V C¥MCADAM 参照	
OLEオフジェかの出力解像度 200	
74	



### RPD環境設定ファイル「MCRPDn.SYS」の設定

1. 新しいプロッターに使用する「MCRPDn.SYS」をMCADAMフォル ダ内に作成

ここでは"MCRPD2.SYS"を作成します。

MCADAMフォルダ内の「MCRPD.SYS」をコピーして使用 すると便利です。

「MCRPDn.SYS」の"n"は「MCHC5.SYS」のキーワード 「PLT」で指定されたポート番号「COMn」と同じ番号で 作成してください。 (例) ポート番号がCOM1の場合: MCRPD1.SYS ポート番号がCOM2の場合: MCRPD2.SYS ポート番号がCOM3の場合: MCRPD3.SYS ポート番号がCOM4の場合: MCRPD4.SYS ポート番号がCOM5の場合: MCRPD5.SYS

2. 「RPD環境設定ユーティリティー」のメニュー・バー[ファイル] →「MCRPDn.SYSを開く」をSEL

上記で準備した「MCRPD2.SYS」を開きます。

「「「」「」			×
💮 🔂 י בארב ארב ארב ארב ארב ארב ארב ארב ארב אר	ディスク (C:) + MCADAM + 🛛 🔸	MCADAMの検索	<b>!</b>
整理 マ 新しいフォルダー		83	- 🔳 🔞
かたまたしたり	名前 ▲	更新日時	種類
「二 デスクトップ	🔒 support	2015/07/09	ファイル フォルダー
📒 最近表示した場所	📕 SXF	2015/03/31	ファイル フォルダー
🗼 ダウンロード	🕌 SYS	2015/03/31	ファイル フォルダー
Sa 54/750	J VMNU	2015/03/31	ファイル フォルダー
Frank	3 WARME	2015/03/31	ファイル フォルダー
■ ピクチャ	MCRPD.SYS	2015/07/22	SYS ファイル
🚼 ビデオ	MCRPD1SYS	2015/08/16	SYS 7711
₀) ミュージック	MCRPD2.SYS	2015/07/21	SYS ファイル
🚜 ホームグループ	MODEDISIC	0015/02/01	SHC 7- (1
	MCRPD4.SYS	2015/05/28	SYS ファイル
1 コンピューター	MCRPD5.SYS	2015/05/28	SYS ファイル 🖵
🦀 ローカル ディスク (C:)			Þ
ファイル名(N):	MCRPD2.SYS	MCRPD Files (MCF	RPD*.SYS) 🔻
		聞<( <u>○</u> ) ▼	キャンセル

□ RPD1型境設建2-7(1)7(-		
ファイル(F) 表示(V) ヘルプ(H)		
	Ŷ	
MORPOSYS MCHO6SYS	MOPPS6SYS	
	RPD環境設定1-ティリティー - [C:¥MCADAM¥MCRPD1.SYS]	×
	27:1A(F) 9-b(T) 表示(V) Ab?*(H)	
	MCRPDSYS MOPPS6SYS	
· · · · ·	[出21731]出71兵置 2927116欄 処理方法 綿種 文字 文字線幅 HE  HE(ペジ) その他	Â
	172/2006/01	
	使用するコマントの種類 HP-GL ・ HP-GLコマントの専用	
	1000 1000 1000 1000 1000 1000 1000 100	
	- デール・コマンドの付加	
	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	
	1	=
	一出力の刺繍の	
	<b>出力方式 シンアルーホ^ート(RS282C) ・</b> 出力先 参照	
	種別 D-SCAN 🔽 に答待ち時間 30 応答待ち時間 10	
	時代で回動: 5	
λ <del>7</del> * {	出力時の作業領域(FTP) C#mchellx#RPD #88	
	7°4	



[MCRPD.SYS] ボタン→ [出力方式] シート→ [コマンドの制御]
 → [使用するコマンドの種類] で出力コマンドをSEL

長尺プロッター出力では、GDI以外の出力コマンドが選択 可能です。

「出力の制御」で、選択した出力コマンドに対応した「出力方式」
 と「出力先」を指定
 (例)スプール、C:¥MCADAM

「出力方式」と「出力先」の設定については、「第六章 3. 出力コマンドと出力方式の関係」および「第六章 4.出力方 式の設定例(3. の解説)」をご参照ください。

- 5. [出力装置] シート→ [有効作画範囲] → [長尺図面の最大値] → 最大値を入力
- 6. 設定終了後、[ファイル] → [アプリケーションの終了] で編集した「MCRPD2.SYS」と「MCHC5.SYS」を保存→閉じる

■ RPD環境設定ユーテルティー = [C¥]	MCADAM¥MCRPD2.SYS]	<u>-                                    </u>
17 11 10 7 10 sol 0 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1	y *	
MCRPDSYS MCHC5SYS MCPPS	35.SYS	
出力方式   と 力装置   スタンフト情報	処理方法 線種  文字  文字線幅 HIE   HIE(ヘツン)   その他	
コマントの制御 使用するコマントの種類 [HP-GL/ ヘッダー・コマンドの付加 ハンとファイル名 [ デール・コマンドの付加 ハンとファイル名 [	2+RTL     HP-GLIZ72/KO#/部       当日、日本の推動目     7580条       「出たーやの推動目」     7580条       「出た」になってわり、(RP1の出力)     「出力しるな、       「出力しるな、     水気炊業正       ●     (C 407) = h(4) を出力する。       出力するEOFIZ70パ(*)を出力する。     出力するEOFIZ70パ(*)を出力する。	
出力の制御 出力方式 スプール	L 出力先 C¥MGADAM	
租別 D-SCAN I	応答待549間 30 応答行549間 60 新行回版 5	
出力時の作業領域(FTP)	CWmchelkWRPD 参照	
Ŧ°1		

<mark>▼ RPD環境設定ユーテ(リティー - [C:¥MCADAM¥MCRPD.SYS]</mark> ファイル(F) ツール(T) 表示(V) ヘルフ℃H)・		
MCRPDSYS MCHC5SYS		
出力方式 出力装置 北小 階級   処理方法   線種   文字   文字線幅	HIE   HIE(ヘツン)   その他	
有効作画範囲	使用する^^の数 🔹 💌	
□ A0サイズ × 1189 Y 841 用紙方向 0度 💌	長尺図面の最大長 2000.0	
▼ A1サイズ X 841 Y 594 用紙方向 0度 ▼	リリナンオス第の名で使用がついた。 400	
▼ A2サイズ × 594 Y 420 用紙方向 0度 ▼		
▼ A3サイズ X 420 Y 297 用紙方向 0度 ▼	1	
▼ A4サイズ × 297 Y 210 用紙方向 0度 ▼	1	
11回委律点の開発 X方向の移動量 0.0		
Y方向の移動量 0.0		
		1
b7'x		





1. 縮小出力設定のポイント



- 1. 出力データサイズにかかわらずA4サイズの用紙に出力する場合 以下の設定により、出力データサイズがA4サイズを超えていても、A4サイズの用紙に縮小して出力することができ ます。
  - 設定ダイアログの場合

「RPD環境設定ユーティリティー」で「MCRPDn.SYS」を開き、[出力装置] シートの[有効] 作画範囲] で以下の設定をします。

: チェックを付け、X=297 Y=210 用紙方向=0度 と入力

(設定例)

- A0サイズ : チェックを外す
- A1サイズ : チェックを外す
- A2サイズ : チェックを外す
  - : チェックを外す

A3サイズ A4サイズ

テキストファイル(MCRPDn.SYS) 編集の場合

(設定例)

RPSIZE0 =	: 指定を無効化する
RPSIZE1 =	: 指定を無効化する
RPSIZE2 =	: 指定を無効化する
RPSIZE3 =	: 指定を無効化する
RPSIZE4 = 297,210,A	: A4サイズの値を設定する



 実際の設定例 以下のように設定した場合の動きを図で解説します。

#### - MCRPDn.SYS

RPSIZE2=594,420,A(・・・A2サイズは、594×420に設定。用紙方向は0度。)RPSIZE3=420,297,B(・・・A3サイズは、420×297に設定。用紙方向は90度。)RPSIZE4=297,210,A(・・・A4サイズは、297×210に設定。用紙方向は0度。)

- 出力パラメーター・ファイル
  - SCL=2 (作画領域に収まるようにスケールをかける)
- プロット・データ

600,420





#### 仮想出力装置テーブル「MCVOD.TBL」の設定

- 1. (システム区画):¥:MCADAMフォルダ内の「MCVOD.TBL」ファ イルを、テキスト・エディタで開く
- 2. 以下の4つのキーワードを設定する
  - DEV:出力装置の名称(任意)を半角英数8文字以内で指定 (例) PLOT03
  - PRM:適用する出力パラメーター・ファイルのパスとファイル 名を指定

(例) C:¥MCADAM¥PENPLT3.PRM

デフォルトでインストールされているサンプルファイルで は、このキーワード「PRM」の先頭に「\*」(コメントア ウト)が付いていますので削除してください。

- CLS

"PEN"または"PRN"を指定します。

RPDを使用する場合は必ず"PEN"を指定します。

- COM プロッター名など出力装置についてのコメントを指定 (例) "縮小印刷"

二重引用符号で囲って半角英数換算で40文字以内で指定します(2バイト文字使用可能)。

3. ファイルを保存→閉じる

・最大256台の出力装置の設定が可能です。 ・仮想出力装置を追加するには、上記4つのキーワードをコ ピーして追加してください。

┃  MCVOD.TBL - メモ帳 ファイル(E) 編集(E) 書式( <u>0</u> ) 表示( <u>V</u> ) ヘルプ( <u>H</u> )		×
DEV = PLOT03 PRM = C:¥MCADAM¥PENPLT3.PRM CLS = PEN	<b>∗</b> MAX 8 byte	
COM = "縮小印刷"	* MAX 40 byte	
DEV = PLOT04 PRM = C:¥MCADAM¥PENPLT4.PRM	<b>*</b> MAX 8 byte	
COM = "イメージ出力"	* MAX 40 byte	•



### 出カパラメーター・ファイル「~.PRM」の設定

1. 「MCVOD.TBL」のキーワード「PRM」で指定した出力パラメーター ・ファイル (例: PENPLT3.PRM)をMCADAMフォルダに作成

サンプルファイルをコピーすると便利です。 PRMのサンプルファイルはMC導入ディレクトリー内 (例:C:¥mchelix¥HDD)の「SAMPLE」フォルダ内にあ ります。

- MC Helixの<出力 (PLOT)> 【パラメータ (PARM)】で"出力装置" ダイアログを開く
- 3. 「MCVOD.TBL」のキーワード「DEV」で指定した出力装置名 "PLOT03" をSEL
- 4. [出力パラメーター] をSEL
- 5. 「共通」シート→「出力装置」の"PLT3"をSEL
- 6. 「共通」シート→ [出力範囲の調整] →"調整しない" をSEL
- 7. 「プロット・ファイルの作成場所」にプロット・ファイル(~.OFI) の格納場所を指定

(例) C:¥MCADAM

- 8. 「プロット・サーバーを使って出力する」のチェックを外す
- 9. [OK] をSEL
- 10. [出力パラメータの保存] をSEL
- 11. [OK] で保存

<u>? ×</u>
OK
キャンセル
出力パラメーター
出力パラメータの保存
<u>^₩</u> 7°

出力パラメーター				<u>? ×</u>
(其通) ロッター [フツンター]				
出力装置	PLT3	図面の拡大/縮小	100 🕂 🛪	ОК
出力範囲の調整	調整しない  ▼			キャンセル
破線の長さ	2			
矢頭の長さ	3.0	ロコカット・フケールをかける		
矢視の矢頭の長さ		▼ 1 101-X7-108000 0		
ハッチンク線の間隔	2			
ハッチングの線幅	細線			
文字ホックスの線幅	中線			
出力枚数	1			
出力の種類				
エラー発生時の処理	処理を中止する	•		
プロット・ファイルの作成場所	C:¥MCADAM		参照	
□ 図面枠のスケールをプロット・デー?	ぬスケールに合わせる	🔽 ว ๊บงห•วรศมส	前川余する	
□ ブロット・サーバーを使って出力す	3	□ 図面枠キーワー	トを出力する	
PDFファイルの透かし文字として	出力する			N2°



## ハードコピー環境設定ファイル「MCHC5.SYS」の設定

- 1. 「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- 2. 「ファイル」→「MCHC5.SYS」→MCADAMフォルダー内の 「MCHC5.SYS」をSEL
- [MCHC5.SYS] ボタン→ [RPD関連] シート→ [プロッター] で "PLT3"をSEL
- 4. [ポート]を指定

この例では"COM3"を指定します。

指定されたポート番号により、参照するRPD環境設定ファイ ル名が決定されます。 「COM3」を指定した場合、「MCRPD3.SYS」を参照します。

5. [パスとドライバー名] でmcrpd.exeのパスを指定 (例: C:¥mchelix¥rpd¥mcrpd.exe)

〒RPD環境設定2−ティリティ~ - [C:¥MCADAM¥MCHC5.SYS]	×
MCRPDSY MCHC65YS M PEBBSYS	
RPD開連 その他	
- 11/2 素置の選択	
ን'ኪ-ሃ፦ PLT3 💌	
□ フロッター固有のコマントを使用する	
□ 塗りつぶす領域の輪郭線を出力しない	
x~-ト COM3	
±11 40/071A >7/0/4984	
襟種 HP7585B,HP7595B A0以下 8 ▼	
パなとドライバー名 C¥mchelix¥RPD¥MCRPD.EXE 参照	
漢字フォント・ファイル VSS ▼ C¥MCADAM 参照	
OLEATYYYND出力解除度 200	
, b7'i	



#### RPD環境設定ファイル「MCRPDn.SYS」の設定

1. 新しいプロッターに使用する「MCRPDn.SYS」をMCADAMフォルダ 内に作成

ここでは"MCRPD3.SYS"を作成します。

MCADAMフォルダ内の「MCRPD.SYS」をコピーして使用 すると便利です。

「MCRPDn.SYS」の"n"は「MCHC5.SYS」のキーワード 「PLT」で指定されたポート番号「COMn」と同じ番号で 作成してください。 (例) ポート番号がCOM1の場合: MCRPD1.SYS ポート番号がCOM2の場合: MCRPD2.SYS ポート番号がCOM3の場合: MCRPD3.SYS ポート番号がCOM4の場合: MCRPD4.SYS ポート番号がCOM5の場合: MCRPD5.SYS

2. 「RPD環境設定ユーティリティー」のメニュー・バー[ファイル]→ 「MCRPDn.SYSを開く」をSEL

上記で準備した「MCRPD3.SYS」を開きます。

11 周〈			×
אל-ם פא-בטעב - 📕	ディスク (C:) + MCADAM +	▼ த MCADAMの検索	2
整理 マ 新しいフォルダー		8== -	
📃 デスクトップ 📃	名前 ▲	更新日時 種類	i 🔺
3 最近表示した場所	🌗 support	2015/07/09 771	(ル フォルダー
1-P	퉬 SXF	2015/03/31 771	(ル フォルダー
🍃 ライブラリ	퉬 SYS	2015/03/31 ファイ	(ル フォルダー
F#1X2F	\mu VMNU	2015/03/31 771	(ル フォルダー
■ ピクチャ	퉬 WARMF	2015/03/31 771	(ル フォルダー
ETオ → ミュージッカ	MCRPD SYS	2015/07/22 SYS	ファイル
• ~	MCRPD1SYS	2015/08/16 SYS	ファイル
輚 ホームグループ	MCRPD2SYS	2015/07/21 SYS	7711
	MCRPD3SYS	2015/07/21 SYS	ファイル
M n===== ₹/2 h (c)	Caropopers	0015/05/00 CVC	7-(1)
iasc mc (¥¥ipnesa¥ipnesa¥proie	MCRPD5.SYS	2015/05/28 SYS	ファイル 🖵
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			Þ
ファイル名 <u>(N</u> ):	MCRPD3.SYS	MCRPD Files (MCRPD*	•.sys) 💌
		開<( <u>○</u> ) ▼ _=+1	?>tu

3 RPD模模設定2-7/05/-	
ファイル(F) 表示(V) ヘルプ(H)	
NORDENS IN FORMULA	
C PDE時間記述:+69%- (C:HACADAMINGRPLSYS)      DYG(0) 3+4() 表示(0) 407(0)      DYG(0) 3+4() 表示(0) 407(0)      DYG(0)      DYG(0) 407(0)      DYG(0) 407(0)      DYG(0) 407(0)      DYG(0)      DYG(0)      DYG(0)      DYG(0)      DYG(0)      DYG(0)      DYG(0)      DYG(0)      DYG(0)      DYG(0)	
b7'4	Ξ÷



[MCRPD.SYS] ボタン→ [出力方式] シート→ [コマンドの制御]
 → [使用するコマンドの種類] で出力コマンドをSEL

縮小印刷の場合、全ての出力コマンドが選択可能です。

「出力の制御」で、選択した出力コマンドに対応した「出力方式」
 と「出力先」を指定
 (例)スプール、C:¥MCADAM

「出力方式」と「出力先」の設定については、「第六章 3. 出力コマンドと出力方式の関係」および「第六章 4.出力方 式の設定例(3. の解説)」をご参照ください。

- 5. [出力装置] シート→ [有効作画範囲] →"A4サイズ"のみ設定
- [ファイル] → [アプリケーションの終了] で編集した
   [MCRPD3.SYS] と「MCHC5.SYS」を保存→閉じる

RPD環境設定ユーデザティー - [C:¥MCADAM¥MCRPD2SYS]	
(ル(E) ツール(D) 表示(Y) ヘルブ(B)	
RPDSYS MCHC65YS MCP2565Y6	
出力方式   と力装置   スタンフ 1 情報   処理方法   線種   文字   文字線幅   HE   HEE(^?)   その他	
177かの制御 使用する177かの推測 HP-GL72+RTL マ ・ペオー・177かの計測 パンとフィルの在加 アンとフィル名 <u>参照</u> L コビー・コイン(RPDの出力 出力しない マ 牧政有正 -3 マ	
- <b>チートコマンドのけ加</b> - <b>パンとファイル-名 参照</b> - 一 用紙サイス <sup>ト</sup> コアンドワらを出力する - 一 用紙サイス <sup>ト</sup> コアンドワークを出力する - 出力するEOPコアンド 『▲F."	
出力の制御 出力方式 スプール ・ 出力先 C-YMCADAM _ 参照	
括別 D-SCAN  Lo合何の中間 30  応咨符が時間 80  読行回放  5	
出力時创作業項紙(FTP) CWinchellsWRPD	
PD頃境覚定-ディザテー [C:MCADAN¥MCRPD3SYS] ME ケールロ 表示① ヘルブヒシ ダビ目 愛 クレタ マ RPDSYS 04655YS MCPP555YS	
377方式 田77 読置 979 情報   処理方法   線種   文字   文字線幅   HIE   HIE (ペッ)   その他   - 有効作画範囲 (使用オスペッパボケ 図 マ	1
□ <u>西町73</u> × 1189 × 1841 用低方向 1度 × ■ <u>■</u> ■ A194/2* × 1841 × 1844 用低方向 1度 × 1	
■ A294.7× × 594 Y 420 用版方向 回復 → 出力諸濫の解除度(DPD 400	
A 2014 72 × 1262 / 137 田原方向 10度 ▼ マ A 2014 72 × 1297 Y 210 田底方向 10度 ▼	

作画基準点の調整

X方向の移動量 Y方向の移動量

レディ

0.0

0.0

# 第四章 イメージ付き図面の出力設定例

# 1. イメージ付き図面の出力設定のポイント



- 1. RPDを使ってイメージ・データを出力する場合、「D-SCAN」、「HP-GL/2+RTL」のプロッター言語を使用できます。また、「GDI」での出力も可能です。
- 2. それぞれに対するイメージ・データの形式は以下の通りですので、出力する際はイメージ・データや プロッター言語が対応しているかをご確認ください。
  - 「 D-SCAN」の場合
    - G4形式のイメージ・データ(モノクロのみ)
  - 「HP-GL/2+RTL」、「GDI」の場合
    - 「Packed Bits」形式のイメージ・データ
    - 「G4」形式のイメージ・データ(モノクロのみ)

「Packed Bits」、「G4」については「第六章 6. 用語解説」をご参照ください。

- 3. イメージ出力の場合、出力パラメーター・ファイルに以下の指定が必要です。
  - 設定ダイアログの場合
    - 1. ファンクション <出力> 【出力装置】で出力を行う装置を選択
    - 2. 【パラメータ】で表示されるダイアログ・ボックスの [出カパラメーター] を選択
    - 3. [プロッター] シートの [イメージ・データを出力する] を選択
    - 4. [イメージ・データの圧縮方法] で「G4」または「Packed Bits」を選択
  - テキストファイル(~.PRM) 編集の場合
     (設定例)
    - RST = ON : イメージ・データを出力する
    - IMGCMP = G4 : イメージ・データを "PackBits" または "G4" 形式で出力する

以下の条件における図面の回転では、イメージ・データだけが回転できないまま出力されますのでご注意ください。 ・プロット・データに角度が付いている場合

・プロッター側で用紙に角度(回転)の設定がされている、またはネスティング機能を利用する場合



#### 仮想出力装置テーブル「MCVOD.TBL」の設定

- 1. (システム区画):¥:MCADAMフォルダ内の「MCVOD.TBL」ファ イルを、テキスト・エディタで開く
- 2. 以下の4つのキーワードを設定する
  - DEV:出力装置の名称(任意)を半角英数8文字以内で指定 (例) PLOT04
  - PRM:適用する出力パラメーター・ファイルのパスとファイル名 を指定

(例) C:¥MCADAM¥PENPLT4.PRM

デフォルトでインストールされているサンプルファイルで は、このキーワード「PRM」の先頭に「\*」(コメントア ウト)が付いていますので削除してください。

- CLS

"PEN"または"PRN"を指定します。

RPDを使用する場合は必ず"PEN"を指定します。

COM
 プロッター名など出力装置についてのコメントを指定
 (例) "イメージ出力"

二重引用符号で囲って半角英数換算で40文字以内で指定します(2バイト文字使用可能)。

3. ファイルを保存→閉じる

・最大256台の出力装置の設定が可能です。 ・仮想出力装置を追加するには、上記4つのキーワードをコ ピーして追加してください。

■ MCVOD.TBL - メモ帳 ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) 表示(V) ヘルブ(H)	_	
DEV = PLOT04 PRM = C:¥MCADAM¥PENPLT4.PRM CLS = DEN	* MAX 8 byte	•
COM = "イメージ出力"	∗ MAX 40 byte	
DEV = PLOT05 PRM = C:¥MCADAM¥PENPLT5.PRM CLS = PEN	* MAX 8 byte	
COM = "FONTS出力"	* MAX 40 byte	•



### 出カパラメーター・ファイル「~.PRM」の設定

1. 「MCVOD.TBL」のキーワード「PRM」で指定した出力パラメーター ・ファイル(例: PENPLT4.PRM)をMCADAMフォルダに作成

サンプルファイルをコピーすると便利です。 PRMのサンプルファイルはMC導入ディレクトリー内 (例:C:¥mchelix¥HDD)の「SAMPLE」フォルダ内にあ ります。

- MC Helixの<出力 (PLOT)> 【パラメータ (PARM)】で"出力装置" ダイアログを開く
- 3. 「MCVOD.TBL」のキーワード「DEV」で指定した出力装置名 "PLOT04" をSEL
- 4. [出力パラメーター] をSEL
- 5. 「共通」シート→「出力装置」の"PLT4"をSEL
- 6. 「プロット・ファイルの作成場所」にプロット・ファイル(~.OFI) の格納場所を指定

#### (例) C:¥MCADAM

- 7. 「プロット・サーバーを使って出力する」のチェックを外す
- 8. [プロッター] シート→ [イメージ・データを出力する] にチェック を付ける
- 9. [イメージ・データの圧縮方法] でイメージ・データを出力するときの圧縮形式を指定

"G4" または"Pack Bits"を選択します。

- 10. [OK] をSEL
- 11. [出力パラメータの保存]をSEL
- 12. [OK] で保存



H	けいちょーター				<u>? ×</u>
ſ	共通   フ1 タター   フツンター				
t	出力装置	PLT4	図面の拡大/縮小	100 ÷ %	ок
L	出力範囲の調整	調整しない 💌			キャンセル
L	破線の長さ	2			
L	矢頭の長さ	3.0			
L	矢視の矢頭の長さ		N 104.72-16400.0		
L	ハッチング線の間隔	2			
L	ハッチングの線幅	細線			
L	文字ボックスの線幅	中線			
L	出力枚数	1			
L	出力の種類	正式図			
L	エラー発生時の処理	処理を中止する	•		
ľ	プロット・ファイルの作成場所	C:¥MCADAM		参照	
Ľ	□ 図面枠のスケールをフロット・データ	カスケールに合わせる	🔽 ブロット ファイルをi	削除する	
	□ プロット・サーバーを使って出力する	ò	□ 図面枠キーワード	を出力する	
	▶ PDF771ルの適かし文字として出	ピフリダる			<u>^⊮7</u> *
	出ったな、 出力の種類 エラー発生時の処理 フロハ・ファイルの作成場所 「 回応枠のスクールをフロハ・アーム 「 フロハ・サーハーを使って出力する マ PDFフタイルの添加しステとして出	正式図 処理を中止する CYMCADAM DXケールに合わせる とフリずる	マ マ ブュット・ファイル穂 「 図面枠キーワード	<u>参照…</u> 4順する を出力する	^\$7*





### ハードコピー環境設定ファイル「MCHC5.SYS」の設定

- 1. 「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- [ファイル] → [MCHC5.SYS] → MCADAMフォルダー内の [MCHC5.SYS] をSEL
- [MCHC5.SYS] ボタン→ [RPD関連] シート→ [プロッター] で "PLT4"をSEL
- 4. [ポート]を指定

この例では"COM4"を指定します。

指定されたポート番号により、参照するRPD環境設定ファイル 名が決定されます。 「COM4」を指定した場合、「MCRPD4.SYS」を参照します。

5. [パスとドライバー名] でmcrpd.exeのパスを指定 (例:C:¥mchelix¥rpd¥mcrpd.exe)

▼RPD環境設定ユーディヴァイー - [C-¥MCADAN¥MCHC5SYS] [ ファイル(E) ツール(T) 表示(① ヘルプ(E) - (ジ ジ ジ ジ 国 154 - C) ? MCRPDSY _ MCHC5SYS NOPPS5SYS	IX
INCRVDS1     INCRVS1     INCRVDS1     INCRVDS1     INCR	
 ای7۲	_



#### RPD環境設定ファイル「MCRPDn.SYS」の設定

1. 新しいプロッターに使用する「MCRPDn.SYS」を¥MCADAMフォル ダ内に作成

ここでは"MCRPD4.SYS"を作成します。

MCADAMフォルダ内の「MCRPD.SYS」をコピーして使用 すると便利です。

「MCRPDn.SYS」の"n"は「MCHC5.SYS」のキーワード 「PLT」で指定されたポート番号「COMn」と同じ番号で 作成してください。 (例) ポート番号がCOM1の場合: MCRPD1.SYS ポート番号がCOM2の場合: MCRPD2.SYS ポート番号がCOM3の場合: MCRPD3.SYS ポート番号がCOM4の場合: MCRPD4.SYS ポート番号がCOM5の場合: MCRPD5.SYS

2. 「RPD環境設定ユーティリティー」のメニュー・バー[ファイル] →「MCRPDn.SYSを開く」をSEL

上記で準備した「MCRPD4.SYS」を開きます。

11111111111111111111111111111111111111			×
עמ-ם - לארבי 📕 🕞	ディスク (C:) 🔹 MCADAM 👻 🛛 👻 🛃	MCADAMの検索	2
整理 マ 新しいフォルダー			= 🔹 🛄 🔞
📃 デスクトップ 📃	名前 🔺	更新日時	種類
3 最近表示した場所 メウンロード	🎉 support	2015/07/09	ファイル フォルダー
	N SXF	2015/03/31	ファイル フォルダー
🏣 ライブラリ	iii sys	2015/03/31	ファイル フォルダー
🖹 F#1X2F	🐌 VMNU	2015/03/31	ファイル フォルダー
ビクチャ	🕌 WARMF	2015/03/31	ファイル フォルダー (
ビナオ トミュージック	MCRPD SYS	2015/07/22	SYS ファイル
<ul><li>&lt;1 &gt;&gt;&gt;</li></ul>	MCRPD1.SYS	2015/08/16	SYS 7711
🜏 ホームグループ	MCRPD2.SYS	2015/07/21	SYS ファイル
	MCRPD3515	2015/07/21	515 77114
N n====================================	MCRPD4.SYS	2015/05/28	SYS ファイル
iaso mo (¥¥innesa¥innesa¥nroie	MODDECVC	2015/05/29	SVS 3-41
	<u>∢</u>		Þ
ファイル名(凶):	ICRPD4.SYS	MCRPD Files (MC	RPD*.SYS) -
		開<( <u>○</u> ) ▼	キャンセル
			///

1 RPDI最短途1-74954-	
27(%(F) 表示(V) ヘルプ(H)	
MORPDSYS M HOSSYS MOPPSSBYS	
RPD環境設定1-F/I/F/[C:¥MCADAM¥MCRPD1.SYS]	- • <b>×</b>
27/b(F) 9-b(T) 表示(V) Ab7*(H)	
MCRPDSYS MCPPSeSYS	
[四2777355][出7]為廣 2927%[編編 処理方法 綿種 文字 文字錄幅 HE HE(ヘ*) その他	î
(使用するオジナの種類) HP-GL  ・  ・  ・  ・  ・  ・  ・  ・  ・  ・  ・  ・  ・	
パスとファイル名 参照	
出力しない ▼ 校設施正 0 ▼	
-7-8-37//0/thm	
バスとファイル名 参照 -	
出力するEOPコマンド <sup>の</sup> (AF:	
出力方式、「277.8	
後部 D-SCAN ×  応答符も時間 30  応答符も時間 10	
新行回版 <b>5</b>	
k7 (	
出力時の作業領域(FTP) C¥mchelix¥RPD 参照	
UST 4	



- 3. [MCRPD.SYS] ボタン→ [出力方式] シート→ [コマンドの制御]
  - → [使用するコマンドの種類] で出力コマンドをSEL
     (例) D-SCAN →G4
     HP-GL/2+RTL →G4またはPacked Bits
     GDI →G4またはPacked Bits
- 4. 「出力の制御」で、選択した出力コマンドに対応した「出力方式」 と「出力先」を指定
  - (例)スプール、C:¥MCADAM

「出力方式」と「出力先」の設定については、「第六章 3. 出力コマンドと出力方式の関係」および「第六章 4.出力方 式の設定例(3. の解説)」をご参照ください。

5. [ファイル] → [アプリケーションの終了] で、編集した 「MCRPD4.SYS」と「MCHC5.SYS」を保存→閉じる

	MGADAMYMCRPD2SYS] 60 - SEGYS	X
出力方式  2 カ技選   スタン7論報  コマンドの利用 ・ スタンマンドの経験  HP-GL/ ・ スタンマンドの付加 ・ パンとファイル名 「 - デール・コマンドの付加 ・ パンとファイル名	建築法法 線種 文字 文字線幅 HE HE(*2) その他     HP-0に172)*の約1部     TSU-500孫      TSU-500孫     TSU-500孫     TSU-500孫     TSU-500孫     TSU-500孫     TSU-500     TSU-500	
- 出力の制御- 出力方式 スパール 番別 D-SCAN ▼	出力先 (CYMCADAM	
出力時の作業頻均(FTP)	部行回動 CVmchelixWRPD	



# 第五章 アウトラインフォントでの出力設定例





- 1. 出力パラメーター・ファイル(~.PRM)に以下の指定が必要です。 - 設定ダイアログの場合
  - 1. ファンクション <出力> 【出力装置】で出力を行う装置を選択
  - 2. 【パラメータ】で表示されるダイアログ・ボックスの [出カパラメーター] を選択
  - 3. [プロッター] シートの [フォントの種類] で「コード2」を選択
  - テキストファイル(~.PRM)編集の場合
    - PFT=3 :文字はすべてコードで出力する
- 2. RPD環境設定ファイル「MCRPDn.SYS」に以下の指定が必要です。
  - 設定ダイアログの場合

使用する書体

- 1. 「RPD環境設定ユーティリティー」で「MCRPDn.SYS」を選択
- 2. [文字] シートの [アウトライン・フォント集] で以下を指定
- (設定例)

- :"明朝体"、"角ゴシック体"、"丸ゴシック体"のいづれかを選択
- フォント・ファイル・パス : アウトラインフォントを導入した場所
- テキストファイル(MCRPDn.SYS)編集の場合

(設定例)

- FONTMC=0 :0=明朝体、1=角ゴシック体、2=丸ゴシック体
- FONTDRV=C:¥FONTS : アウトラインフォントを導入した場所のパス


3. 出力を実行するマシンの出力用環境設定ファイル「MCHCn.SYS」で指定されている場所に、漢字フ ォント・ファイルが導入されている必要があります。

(注)プロット・サーバー経由で出力する場合は、プロット・サーバーが稼動しているマシンに導入されている必要があります。

#### - 設定ダイアログの場合

- 1. 「環境設定ユーティリティー」で「MCHC5.SYS」を選択
- 2. [ファイル] シートの「パスとファイル名」の「漢字フォント・ファイル」で、漢字フォント・ファイルの 種別、およびパスとファイル名を指定
- (設定例) ベクター・フォント(\$VSSKJ16.FNT)を使用している場合
  - VSS C:¥MCADAM¥\$VSSKJ16.FNT
- テキストファイル(MCHC5.SYS)編集の場合
  - (設定例)
  - KJFNT = VSS,C:¥MCADAM¥\$VSSKJ16.FNT



#### 仮想出力装置テーブル「MCVOD.TBL」の設定

- 1. (システム区画):¥:MCADAMフォルダ内の「MCVOD.TBL」ファ イルを、テキスト・エディタで開く
- 2. 以下の4つのキーワードを設定する
  - DEV:出力装置の名称(任意)を半角英数8文字以内で指定 (例) PLOT05
  - PRM:適用する出力パラメーター・ファイルのパスとファイ ル名を指定

(例) C:¥MCADAM¥PENPLT5.PRM

デフォルトでインストールされているサンプルファイルで は、このキーワード「PRM」の先頭に「\*」(コメントア ウト)が付いていますので削除してください。

- CLS

"PEN"または"PRN"を指定します。

RPDを使用する場合は必ず"PEN"を指定します。

- COM

プロッター名など出力装置についてのコメントを指定 (例) "FONTS出力"

二重引用符号で囲って半角英数換算で40文字以内で指定します(2バイト文字使用可能)。

3. ファイルを保存→閉じる

・最大256台の出力装置の設定が可能です。 ・仮想出力装置を追加するには、上記4つのキーワードをコ

ピーして追加してください。





#### 出カパラメーター・ファイル「~.PRM」の設定

1. 「MCVOD.TBL」のキーワード「PRM」で指定した出力パラメーター ・ファイル(例: PENPLT5.PRM)をMCADAMフォルダに作成

サンプルファイルをコピーすると便利です。 PRMのサンプルファイルはMC導入ディレクトリー内 (例:C:¥mchelix¥HDD)の「SAMPLE」フォルダ内にあ ります。

- MC Helixの<出力 (PLOT)> 【パラメータ (PARM)】で"出力装置" ダイアログを開く
- 3. 「MCVOD.TBL」のキーワード「DEV」で指定した出力装置名 "PLOT05" をSEL
- 4. [出力パラメーター] をSEL
- 5. 「共通」シート→「出力装置」の"PLT5"をSEL
- 6. 「プロット・ファイルの作成場所」にプロット・ファイル(~.OFI) の格納場所を指定

(例) C:¥MCADAM

- 7. 「プロット・サーバーを使って出力する」のチェックを外す
- 8. [プロッター] シート→ [フォントの種類] で"コード2"をSEL
- 9. [OK] をSEL
- 10. [出力パラメータの保存] をSEL
- 11. [OK] で保存

出力装置	<u>?</u> ×
仮想出力装置名 PLOT05 👤	OK
出力装置の機種 フロッター	キャンセル
ахул Громтецин <del>ь</del>	出力パラメーター
FONISE/J	出力パラメータの保存
	^ル7°







#### ハードコピー環境設定ファイル「MCHC5.SYS」の設定

- 1. 「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- [ファイル] → [MCHC5.SYS] → MCADAMフォルダー内の [MCHC5.SYS] をSEL
- [MCHC5.SYS] ボタン→ [RPD関連] シート→ [プロッター] で "PLT5"をSEL
- 4. [ポート]を指定

この例では"COM5"を指定します。

指定されたポート番号により、参照するRPD環境設定ファイル名が決定されます。 「COM5」を指定した場合、「MCRPD5.SYS」を参照します。

- 5. [パスとドライバー名] でmcrpd.exeのパスを指定 (例: C:¥mchelix¥rpd¥mcrpd.exe)
- 6. 漢字フォント・ファイルの種別、およびパスとファイル名を指定

(例) C:¥MCADAMのベクター・フォントを使用している場合、入力値は下記の様になります。

VSS、C:¥MCADAM¥\$VSSKJ16.FNT

RPD環境設定ユーティリティー = [C:¥MCADAM¥MCHC5.SYS]	
ファイル(E) ツール(I) 表示(V) ヘルブ(B)	
MORPDAY MCHOSSYS M PRESSYS	
RPD閱連 その他)	,
コカルター技術の資源	
711-7%- PLT5 I	
□ プロッター固有のコマントを使用する	
□ 塗りつぶす領域の輪郭線を出力しない	
ポート COM5 ▼ 通信速度 9600 ▼	
型式 紙のサイズ へつの本数	
機種 HP7585B.HP7595B A0以下 8 ▼	
パなとドライバー名	
漢字フォント・ファイル VSS ▼ C¥MCADAM#\$VSSKJ16FNT 参照	
OLE77 5 19 10 12 10 1	
b74	



#### RPD環境設定ファイル「MCRPDn.SYS」の設定

1. 新しいプロッターに使用する「MCRPDn.SYS」をMCADAMフォル ダ内に作成

ここでは"MCRPD5.SYS"を作成します。

MCADAMフォルダ内の「MCRPD.SYS」をコピーして使用 すると便利です。

「MCRPDn.SYS」の"n"は「MCH 「PLT」で指定されたポート番号	C5.SYS」のキーワード 「COMn」と同じ番号で
作成してください。	
(例)	
ポート番号がCOM <b>1</b> の場合:	MCRPD1.SYS
ポート番号がCOM <b>2</b> の場合:	MCRPD2.SYS
ポート番号がCOM <b>3</b> の場合:	MCRPD3.SYS
ポート番号がCOM <b>4</b> の場合:	MCRPD <b>4</b> .SYS
ポート番号がCOM <b>5</b> の場合:	MCRPD <b>5</b> .SYS

2. 「RPD環境設定ユーティリティー」のメニュー・バー[ファイル] →「MCRPDn.SYSを開く」をSEL

上記で準備した「MCRPD5.SYS」を開きます。

11111111111111111111111111111111111111			×
🕥 🌗 דער אין דאר אין דאר אין דאר	「イスク (C:) + MCADAM +	▼ 😝 MCADAMの検索	•
整理 ▼ 新しいフォルダー		)III 🕶 🔳	?
📃 テスクトッフ 📃	名前 🔺	更新日時 種類	<b></b>
3 最近表示した場所	鷆 support	2015/07/09 ファイル フォル	1月-
	퉬 SXF	2015/03/31 ファイル フォル	1月~
🛜 ライブラリ	퉬 SYS	2015/03/31 ファイル フォル	1月-
	퉬 VMNU	2015/03/31 ファイル フォル	1月-
E ピクチャ	퉬 WARMF	2015/03/31 ファイル フォル	13-
■ ビデオ ▲ ミューギジック	🚳 MCRPD.SYS	2015/07/22 SYS ファイル	
• ~ • • • • • • • • • • • • • • • • • •	S MCRPD1SYS	2015/08/16 SYS ファイル	
🜏 ホームグループ	MCRPD2SYS	2015/07/21 SYS ファイル	
	🚳 MCRPD3SYS	2015/07/21 SYS ファイル	
■ コンピューター	MCRPD4SYS	2015/05/28 SYS 771/	
iasc_mc (¥¥jpngsa¥jpngsa¥proje	MCRPD5.SYS	2015/05/28 SYS ファイル	-
ファイル名 <u>(N</u> ): M	CRPD5.SYS	MCRPD Files (MCRPD*.SYS)	•
		聞く( <u>0</u> ) ▼ キャンセル	•

<b>区</b> RPD	
ファイル(F) 表示(V) ヘルフ	"(H)
10000	
MORPOSYS M HOES	16 MOPPSLEVS
	RPD環境設定1-74974[C:¥MCADAM¥MCRPD1.SYS]     RPD環境設定1-74974[C:¥MCADAM¥MCRPD1.SYS]
	27flk(F) 9-ll(T) 表示(V) ヘlu <sup>2*</sup> (H)
	MORPDSYS MO 255YS
	[ <u>二2777355</u> ]出70梁置 29271%[編]処理方法 線種 文字 文字線幅 HE  HE(ペラ) その他
	100/101
	使用するコマントの種類 HP-GL ・ HP-GL272かの制御
	パンとファルター の の の の の の の の の の の の の の の の の の の
	- 7-1/172/F0/F7加 マ 区切りコード(:)を出力する パスと27/6/名 参照
	1 H2/390E0P322/r Inc.
	出力の制御
	出力方式 ジパル・ボート(RS232C) ・ 出力先 参照
	ハウット・711136(TOP/IP) に溶液は時間(TOP/IP, FTP) に溶液は時間(SOP/IP)・オート)
	10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1
15* /	BR171(2)507 5
10.1	出力時の作業領域(FTP) OXmchelixXRPD 参照
	1 1/7*4



[MCRPD.SYS] ボタン→ [出力方式] シート→ [コマンドの制御]
 → [使用するコマンドの種類] で出力コマンドをSEL

FONTS出力の場合、全ての出力コマンドが選択可能です。

「出力の制御」で、選択した出力コマンドに対応した「出力方式」と
 「出力先」を指定
 (例)スプール、C:¥MCADAM

「出力方式」と「出力先」の設定については、「第六章 3. 出力コマンドと出力方式の関係」および「第六章 4.出力方 式の設定例(3. の解説)」をご参照ください。

- 5. [文字] シート→ [アウトライン・フォント集] → [使用する書体] で"明朝体、角ゴシック体、丸ゴシック体"のいずれかをSEL
- 6. [文字] シート→ [アウトライン・フォント集] → [フォント・ ファイルのパス] → [参照] ボタンで、「FONTS」をインストール したフォルダーを指定
- [ファイル] → [アプリケーションの終了] で編集した
   [MCRPD5.SYS] と「MCHC5.SYS」を保存→閉じる

▼RPD環境設定2-ディザティー [O*MGADAM¥MCRPD2:SYS] ファ(MD) アーKUT) 表示(① へん)*(□)- (型 @ @ ① [D] @ [D] (○) (○ ●)	×
MCRPDSYS MCHC65YS MCPP555YG	
(日本)方式(当)内装置(本均)字積額(処理方法)線種(文字)(文字場稿)相目(相比ペジ)その他       (日本)方式(古)(小(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(	
出力方式     又7~ル     図     出力先     交響       経別     D-SGAN     の     62行行時間     500     500	
BATJUBA 9 出力時の作業頻感(FTP) O¥mchelix¥RPD 参照	
b7 <sup>*</sup> 4	





# ネットワーク編

はじめに



- 本資料の目的
  - 『MICRO CADAM Helix 実践操作解説書 ファンクション <出力> (基礎設定:ネットワ ーク編』の知識を前提に、RPD Serverを使用した種々の出力設定方法を解説した資料で す。

#### ■ 前提条件

- Windows版MC Helix 20xxの環境であること。
- MC V3, V4関連の記述は含まれません。
- MICRO CADAM RPD Serverがインストールされている環境であること。
- 画面イメージはWindows 7ですが、他のWindows OSでも同じ手順です。

#### ■ 留意事項

- 各設定におけるパラメーター、キーワードの詳細については、以下のマニュアル類をご参照ください。
  - ▶ 管理・運用解説書
  - ▶ ラスター・プロッター・ドライバー解説書
  - ▶ ファイル・サーバー解説書
  - ▶ プロット・サーバー解説書
- 解説中下記の設定値はあくまでも設定例です。
  - 下記のパラメーターについてはセットアップする環境に応じて読み替えてください。
    - 「RPD環境設定ユーティリティーの設定」でのPLT1~5、COM1~5及びMCRPD1~5.SYSの番号の部分

当資料の内容は、2015年6月時点(MICRO CADAM Helix 2015R3)の機能をベースに記述しております。 また、OSはWindows7です。 今後の機能改善・追加によっては記述内容が変更される場合があります。



## 第一章 カラー出力設定例

1. カラー出力設定のポイント



- 1. カラー・モードの場合、出力パラメーター・ファイルに以下の指定が必要です。
  - 設定ダイアログの場合
    - 1. ファンクション <出力> 【出力装置】で出力を行う装置を選択
    - 2. 【パラメータ】で表示されるダイアログ・ボックスの [出カパラメーター] を選択
    - 3. [プロッター] シートの [ペンの指定方法] で「カラー」を選択
    - 4. [色情報を付加する]を選択
  - テキストファイル(~.PRM) 編集の場合
    - CLM = 1 : カラー・モードにする
    - ECL = ON : カラー・テーブル情報を出力する(ラスター・プロッターに対して有効)
- 2. カラー・モードの指定(CLM = 1)により、参照する「線の太さごとに使用するペン番号」の指定が変わります。
  - 設定ダイアログの場合
    - 1. ファンクション <出力> 【出力装置】 で出力を行う装置を選択
    - 2. 【パラメータ】で表示されるダイアログ・ボックスの [出力パラメーター] を選択
    - 3. [プロッター] シートの [ペン制御] → [カラー] で線幅(太線、中線、細線)及び注記の「色番号」と「ペン番号」を選択
  - テキストファイル (~.PRM) 編集の場合
    - (設定例)
    - PCC1 = 1,2,3,4,5,6,7,8,8,8,8,8 : カラー・モードでの太線の色番号ごとに使用するペン番号を指定
    - PCC2 = 1,2,3,4,5,6,7,8,8,8,8,8 : カラー・モードでの中線の色番号ごとに使用するペン番号を指定
    - PCC3 = 1,2,3,4,5,6,7,8,8,8,8,8 : カラー・モードでの細線の色番号ごとに使用するペン番号を指定
    - PCC4 = 1,2,3,4,5,6,7,8,8,8,8,8 : カラー・モードでの注記の色番号ごとに使用するペン番号を指定



- 3. RPD環境設定ファイル「MCRPDn.SYS」に以下の指定が必要です。
  - 設定ダイアログの場合
    - 1. 「RPD環境設定ユーティリティー」で「MCRPDn.SYS」を選択
    - 2. [処理方法]シートの [カラーの出力方法]→ [出力方式] で、「テーブル参照方式」, 「3原色算定方式」, 「色を線幅に変換する」のいずれかを選択
    - 3. 手順2. で「テーブル参照方式」を選択した場合、 [色出力データ定義ファイルのパスとファイル名] で 「参照」ボタンを選択してファイル名を選択
  - テキストファイル(MCRPDn.SYS)編集の場合

(設定例)

- RPCTYPE = 0 0: カラー出力の際、個々の色を"テーブル参照方式"で指定
  - 1:カラー出力の際、個々の色を"3原色算定方式"で指定
  - 2:カラー出力の際、個々の色を"色を線幅に変換する"で指定
- RPCTBL = 0 カラー出力で使用する出力色データ定義ファイルをパスで指定 (「RPCTYPE=0」の場合のみ有効です)

プロッターに出力する色を決定する方法は下記の2種類がありますが、プロッターによって異なります。

・テーブル参照方式

・3原色算定方式

詳細については、「第六章 2. カラー出力で使用する色の定義方法」をご参照ください。

4. GDI出力の場合

- GDI対応プリンター出力モジュール(MCPRTW.EXE)ではカラー出力はできないため、MCRPD.EXEが必要となります
- Windowsのプリンター機能を使用しますので、出力方式は印刷キュー経由の出力(スプール)のみになります。

#### 仮想出力装置テーブル「MCVOD.TBL」の設定

- 1. (システム区画):¥:MCADAMフォルダ内の「MCVOD.TBL」ファ イルを、テキスト・エディタで開く
- 2. 以下の4つのキーワードを設定する
  - DEV:出力装置の名称(任意)を半角英数8文字以内で指定 (例) PLOT01
  - PRM:適用する出力パラメーター・ファイルのパスとファイル 名を指定

(例) C:¥MCADAM¥PENPLT1.PRM

デフォルトでインストールされているサンプルファイルで は、このキーワード「PRM」の先頭に「\*」(コメントア ウト)が付いていますので削除してください。

- CLS: "PEN"または"PRN"を指定

RPDを使用する場合は必ず"PEN"を指定してください。

- COM:プロッター名など出力装置についてのコメントを指定 (例)"カラー出力"

二重引用符号で囲って半角英数換算で40文字以内で指定してください(2バイト文字使用可能)。

3. ファイルを保存→閉じる

・最大256台の出力装置の設定が可能です。 ・仮想出力装置を追加するには、上記4つのキーワードを コピーして追加してください。



クライアント側

Helix



#### 出カパラメーター・ファイル「~.PRM」の設定

1. 「MCVOD.TBL」のキーワード「PRM」で指定した出力パラメー ター・ファイル(例: PENPLT1.PRM)をMCADAMフォルダに作成

サンプルファイルをコピーすると便利です。 PRMのサンプルファイルはMC導入ディレクトリー内 (例:C:¥mchelix¥HDD)のSAMPLEフォルダ内にあります。

- MC Helixの<出力 (PLOT)> 【パラメータ (PARM)】で"出力装置" ダイアログを開く
- 3. 「MCVOD.TBL」のキーワード「DEV」で指定した出力装置名 "PLOT01"をSEL
- 4. [出力パラメーター] をSEL
- 5. 「共通」シート→「出力装置」の"PLT1"をSEL
- 「プロット・ファイルの作成場所」でプロット・ファイル(~.OFI) ファイルの格納場所を指定 (例) Z:¥MCADAM¥PPSPEN1

仮想区画の指定方法は、環境設定ファイル「MCFILE5.SYS」の 設定ページをご参照ください。

- 7. 「プロットサーバーを使って出力する」にチェックを付ける
- 8. [プロッター] シート→ [ペンの指定方法] で "カラー"をSEL
- 9. [色情報を付加する] にチェックを付ける
- 10. [OK] をSEL
- 11. [出カパラメータの保存]をSEL
- 12. [OK] で保存



出力装置				<u>? ×</u>
仮想出力装置名	PLOT01	•	ОК	
出力装置の機種	ጋ°ロッター		キャンセノ	۱.
40%			出力パラメ	-9
カラー出力 			出力パラメータ	の保存
] ]				
出力パラメーター				<u>?×</u>
共通 7泊ッター   フリンター				
出力装置	PLT1 -	図面の拡大/縮小	100 🕂 🕷	OK
出力範囲の調整				++>tell
破線の長さ	2			
矢頭の長さ	3.0	ロ つりつト・アケールをおけ	ta	
矢視の矢頭の長さ		1. 7 HVI 7/7 1/ C//	, o	
ハッチング線の間隔	2			
ハッチングの線幅	細線			
文字ボックスの線幅	中線			
出力枚数	1			
出力の種類				
エラー発生時の処理	次の図面の処理に移	ত 🔻		
プロット・ファイルの作成場所	Z¥MCADAM¥PPSP	EN1	参照	
□ 図面枠の2ケールをつわット・テー	-9のスケールに合わせる	ער ז'נעי <b>וע</b> ר פון דיי	化を削除する	
▶ プロット・サーバーを使って出力:	<b>1</b> 3	□ 図面枠キ	-ワートを出力する	
□ PDFファ1ルの透かし文字とし	(出力する			^₩7*

出力パラメーター				<u>? ×</u>
共通 [712/95-] 792/9-]				
塗り Dovonational 編	0.20	へ">制御		OK
塗りつぶしの線幅	太線			\$40°0510
フォントの種類	⊐-⊦°2 ▼			
フロッター・クリッフ	ハート・クリッフ*	区分 1 💌		
ブロッターの操作方法	自動 💌	文字サイズ 999.990	ヘツ番号 4 マ	
立字もよ	D	Lease 1		
^シの指定方法	17-	カラー 線幅 太線	<b>–</b>	
□ 1メージア゙ータを出力する		色垂号 1		
(1.12 F) horr(a+2)	G4 🔻			
▶ 色情報を付加する		注記		
□ ログオン・ユーザーIDを書き込	.¢С	色番号 1 ▼	^沙番号 1 ▼	
□ ウイント・ウス・ログオンIDを書き	き込む			
□ 図面のユーザーIDを書き込	¢.	- ブロッターのペン速度		
		▲ 小沙番号 1 王	ヘ")速度	
		7℃7℃		
		▲>番号 1 💌	ヘツ圧 D	
				1/1/7*

#### 環境設定ファイル「MCFILE5.SYS」の設定

- 1. OSの [スタート] メニュー → 「すべてのプログラム」→「MICRO CADAM Helix」→「環境設定ユーティリティー」をSELして起動
- 2. 「環境設定ユーティリティー」の「MCFILE5.SYS」ボタンをSEL
- 3. 「サーバー」のシートをSEL
- 4. クライアントの仮想区画名、サーバーのホスト名、サーバーの実区 画名を設定
- 5. メニューバー [ファイル] →「保存」をSEL
- 6. 「MCFILE5.SYS」を保存して→「環境設定ユーティリティー」を 終了

(記入例)

仮想区画名:Z(任意の区画名)

- ホスト名: Server1(プロット・サーバーが稼動するサーバー・マシンのホスト名)
- 実区画: E(サーバー・マシンの実区画)

仮想区画名は、ローカルの区画名とは重ならないようにし てください。 「仮想区画名」と「ローカルの区画名」が重なった場合、 仮想区画名を優先します。 重なったローカル区画名は参照できなくなりますのでご注 意ください。

- Helix 環境設定 コッ(II(E) ッール(T)	ミューティリティー ヘルコギド)				_ 🗆 ×
MCADAM5.SYS	MCFILE5.SYS MCHC5.SYS	MCDF5.SYS			
927 <b>サー</b> ハ*・	- 【 【 画 】 ファイルの格納場所	   共有図形の格納場		() ACCESS ) データ棟云送	↓   未使用子() _ ( ) ●
	A 名 Server1 実区画 F		 言殳	-ħ-ハ <sup>°</sup> -種別 ○ MCW ○ MCX 数(最大 100):	
<u>追加</u> 置換 削除	<ul> <li>○ 前に追加</li> <li>○ 後に追加</li> </ul>				7
-OS77/11名形 本AL名	式 			サーハ <sup>×</sup> ー種別 の MCW の MCX	
-項目の追加 <u>追</u> 加 置換  削除	10/置換/削除		193 	<u>定款(最大100):</u>	
C:¥MCADAM¥MCF	ILE5.SYS				MCVOL = C

クライアント側

Helix



#### プロット・サーバー環境設定ファイル「MCPPS5.SYS」の設定

- 1. OSの [スタート] メニュー→「すべてのプログラム」→「MICRO CADAM Helix」→「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- CRPD環境設定ユーティリティー」のメニュー・バー [ファイル]
   →「MCPPS5.SYSを開く」をSEL→「MCPPS5.SYS」を開く
- 3. 「RPD関連」シートで、キーワード「server」に指定する値をダイ アログから指定

「待ち行列」ディレクトリーはプロット・サーバーを起動 するまでに事前に作成しておく必要があります。

 (例) server=E:¥PPSPEN1¥\*.OFI/mcrpd/PEN/COM1/9600 server=E:¥PPSPEN2¥\*.OFI/mcrpd/PEN/COM2/19200 server=E:¥PPSPEN3¥\*.OFI/mcrpd/PEN/COM3/38400
 (書式) server=待ち行列/出力ドライバー/プロット・ファイルの種類/

出力装置/通信速度

RPU境現設定ユーティダティー - [U#MUADAM#MUPPS&SYS] (#/F) ットル(T) 本一(A ANAYH).	
RPD SYS MCH058 S MCPPS5SYS	
PD関連】-の他)	
サーバー環境の設定	
プロット・ファイルの格納先 C*MCADAM¥PPSPEN3 参照	
and a contrary OFT	
711/27・791ルの知識表す 0011	
ドライバーの種類 mcrpd 💌	
7 <sup>1</sup> 17 <sup>+</sup> ·777ルの種類 PEN I	
山为注意//thul COM3 ▼	
2011日2025년、 384-00 -	
- 項目の追加/置換/削除 。	
C#MCADAM#PPSPEN1#* OFL/mcrpd/PEN/COM1/9600 C#MCADAM#PPSPEN2#* OFL/mcrpd/PEN/COM2/19200	
道加 C 前に追加 CXXIIGADANXPPSPEN8##IOFI/mcrcd/PEN/COM8/88400	
置換	
·····································	

RPDを使用する場合、プロット・ファイルの種類は必ず"PEN"を指定します。

 キーワード「server」以外のキーワードは、直接システム区画の「¥MCADAM」フォルダーにあるプロット・ サーバー環境設定ファイル「MCPPS5.SYS」を編集してください。 また、編集するキーワードの詳細につきましては、『プロット・サーバー解説書』をご参照ください。
 プロット・サーバーのプロット・ファイル処理順序は、「MCPPS5.SYS」のキーワード「qserch」で指定します。 「qserch=1」: 優先順位の高い待ち行列のプロット・ファイルから出力します。 「qserch=2」: 各待ち行列の優先順位の高いプロット・ファイルを順次出力します(推奨)。
 ログ・ファイル「MCPPS5.LOG」の出力は、「MCPPS5.SYS」のキーワード「ppslog」で指定します。 「ppslog=yes」で「MCPPS5.LOG」が出力されます。
 「MCPPSD.LOG」は、プロット・サーバーがサービスとして起動された場合に自動的に作成されます。

Helix



#### RPD環境設定ファイル「MCRPDn.SYS」の設定

1. 新しいプロッターに使用する「MCRPDn.SYS」をMCADAMフォルダ 内に作成

ここでは"MCRPD1.SYS"を作成します。

MCADAMフォルダ内の「MCRPD.SYS」をコピーして使用 すると便利です。

「MCRPDn.SYS」の"n"は「MCPPS5.SYS」のキーワー ド「server」で指定されたポート番号「COMn」と同じ番 号で作成してください。 (例) ポート番号がCOM1の場合: MCRPD1.SYS ポート番号がCOM2の場合: MCRPD2.SYS ポート番号がCOM3の場合: MCRPD3.SYS ポート番号がCOM4の場合: MCRPD4.SYS ポート番号がCOM5の場合: MCRPD5.SYS

- 2. OSの [スタート] メニュー→「すべてのプログラム」→「MICRO CADAM Helix」→「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- S. 「RPD環境設定ユーティリティー」のメニュー・バー[ファイル]
   →「MCRPDn.SYSを開く」をSEL→作成したMCRPD1.SYSを開く

📆 罰<		×
💮 🔛 י בטצב - אר - ם-או	ディスク (C:) 🕶 MCADAM 👻 🛛 👻	MCADAMの検索 💋
整理 マ 新しいフォルダー		iii - 🔟 🔞
🔶 お気に入り 🔺	名前 ▲	更新日時 種類 ▲
📃 デスクトップ	👪 support	2015/07/09_ ファイル フォルダー
3. 最近表示した場所	🍑 SXF	2015/03/31_ ファイル フォルダー
	\mu sys	2015/03/31_ ファイル フォルダー
🛜 ライブラリ	MNU VMNU	2015/03/31_ ファイル フォルダー
F+1X2h	U WARMF	2015/03/31_ ファイル フォルダー
N ビデオ		2010/01/22_ 313 /// //
🐻 💵 – ジック	MCRPD1S1S	2015/08/16_ 313 /7/1/
- <b>2</b> +. 1 × →	MCBPDASYS	2015/07/21 SYS 72-(1)
₩-291v-7	MCRPD4.SYS	2015/05/28_ SYS ファイル
🌉 コンピューター	MCRPD5.SYS	2015/05/28_ SYS ファイル 🔻
🚢 ローカル ディスク (C:) 📃	<u> </u>	•
ファイル名(N):	MCRPD1.SYS	<ul> <li>MCRPD Files (MCRPD*.SYS) -</li> </ul>
I	-	
□ RPD環境設定1-10%- 「アパロ(デ サル(T) 表示(	- [C:WMCADAM#MCRPD1.5YS] ) AU7(h) ] 智 <u></u>	(2) 20(8)
-1454,08190		
(肥料するコマントの種類 - ヘッダー・コマントの付加 -	HP-GL ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	580条
1/227/18-8	参照	
	出力しない	▲ 枚紙補正 0 ▲
- テール・コマンドの付加	●照_ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	ó Utatz
		AF: E
出力方式 ジアル・オ	*+(RS232C) • 巴力先	参照
ーパウォト・フロトコル(TCP)	IP) 応答待与時間(TOP/IP、FTP) <b>応答待</b> /	5時間(シリアル・ホート)
f 任臣川 D-SCAN	10019	
出力時の作業の調整	TP) CXmcbalhX8PD	
CTN 144001 Edit Meditor	Texandronia p	<u>50 HR</u>
U7*4		

Helix



Helix

「MCRPD.SYS] ボタン→「出力方式] シート→「コマンドの制御] 4. → 「使用するコマンドの種類」 で出力コマンドをSEL

カラー出力の場合、全ての出力コマンドが選択可能です。

5. 「出力の制御」で、選択した出力コマンドに対応した「出力方式」と 「出力先」を指定 (例) ファイル出力、C:¥MCADAM¥PPSPEN1

「出力方式」と「出力先」の設定については、「第六章 3. 出力コマンドと出力方式の関係」および「第六章 4.出力方 式の設定例(3.の解説) | をご参照ください。

「処理方法]シート→「カラーの出力方法]→「出力方式]が 6. "テーブル参照方式"を指定した場合、「色出力データ定義ファイル のパスとファイル名]も指定

[使用するコマンドの種類] に「CGM」及び「GDI」以外 を指定した場合は、色の定義方法の指定が必要です。 詳細は、「第六章 2. カラー出力で使用する色の定義方 法 | をご参照ください。

7. 「ファイル】→「アプリケーションの終了」で、編集した 「MCRPD1.SYS」、「MCPPS5.SYS」を保存→閉じる

【RPD環境設定ユニテオダティー [G:4*MGADAM#MGRPD1515] アイル(E) ツール(E) 表示(V) ヘルプ(H)・	
·····································	
MCRPDSYS N CHO5SYS MCPPS5SYS	
出力方式 出力装置   スタンフ 1 積報   処理方法   線種   文字   文字線幅   HIE   HIE(^*)   その他	
17%の制御	
使用するコマンドの種類 HP-GL/2+RTL I HP-GLI7ンドの制御	
1399-1777 の17100 1210-201番別 7580系 マ	
パスとファイル名 <u>参照</u>	
出力しない 文 枚数補正 -3 💌	
◎ パンとファル名 参照	
出力するEOPコマント" 「AF."	
Штhлр#Ikin	
ーロンの参照型 中力方式 72-4ル出力 ▼ 中力先 C¥MCADAM¥PPSPEN1 参昭	
Kerni D-SCAN      Kerin      Kerin      SCAN     Kerin      Kerin     Kerin     K	
中力時の作業結婚(FTP) のWineballeWBPD を取	
P4	







1.長尺出力設定のポイント



- 長尺の定義
  - たとえばA1長尺図面と判断する条件は、プロット・データの短い方がA1サイズの高さの キーワード [RPSIZE1] で指定した高さ以下であり、長い方がA1サイズの幅のキーワード 「RPSIZE1」で指定した幅以上である場合です。つまり、高さはA1で、幅がA1サイズを超えるようなプロット・データをA1長尺図面とします。
- 2. 長尺出力設定例
  - A1プロッターに対してRPDから長尺出力をする場合、「MCRPDn.SYS」のパラメータの次の4つの全てを満たせば正しく長尺出力されます。
    - 1. RPSIZEO の指定が無く、RPSIZE1 が最大有効作画範囲となっている
    - 2. RPSIZE1 で設定された短辺の長さ
- ≧ プロット・データの短辺の長さ
- 3. RPSIZE1 で設定された長辺の長さ
  - ≤ プロット・データの長辺の長さ
- 4. RPLMAX で設定された長尺図面の最大プロット長 ≧ プロット・データの長辺の長さ
- 長尺出力は、A1 サイズ以上のプロッターに限られ、「MCRPDn.SYS」でキーワード「RPSIZE0=(A0サイズの 指定)」またはキーワード「RPSIZE1=(A1 サイズの指定)」で用紙サイズを指定する必要があります。

長尺図面の最大長は、プロッター自体でも設定されています。
 実際に採用される値は、長尺図面の長さキーワード「RPLMAX」とプロッター自体で設定された長尺図面の最大長の短いほうが採用されます。

したがって、長尺図面の長さキーワード「RPLMAX」の値を大きくしても途中で切れてしまう場合は、プロッター 側で設定されている値を確認していただく必要があります。

• 長尺出力は、 プロッターの機種によって制約があります。 最大長の制限、設定方法については、使用するプロッ ターの説明書を参照してください。

GDI出力時は、長尺図面の印刷ができません。

## 2. 長尺出力設定

#### 仮想出力装置テーブル「MCVOD.TBL」の設定

- 1. (システム区画):¥:MCADAMフォルダ内の「MCVOD.TBL」ファ イルを、テキスト・エディタで開く
- 2. 以下の4つのキーワードを設定する
  - DEV:出力装置の名称(任意)を半角英数8文字以内で指定 (例) PLOT02
  - PRM:適用する出力パラメーター・ファイルのパスとファイル 名を指定

(例) C:¥MCADAM¥PENPLT2.PRM

デフォルトでインストールされているサンプルファイルで は、このキーワード「PRM」の先頭に「\*」(コメントア ウト)が付いていますので削除してください。

- CLS: "PEN"または"PRN"を指定

RPDを使用する場合は必ず"PEN"を指定してください。

 COM: プロッター名など出力装置についてのコメントを指定 (例) "長尺出力"

二重引用符号で囲って半角英数換算で40文字以内で指定してください(2バイト文字使用可能)。

3. ファイルを保存→閉じる

・最大256台の出力装置の設定が可能です。 ・仮想出力装置を追加するには、上記4つのキーワードを コピーして追加してください。

■ MCVOD.TBL - メモ帳 ファイル(F) 編集(F) ま式(O) 表示(V) ヘルプ(H)	
DEV = PLOT02 PRM = C:¥MCADAM¥PENPLT2.PRM CLS = PEN COM = "長尺出力"	* MAX 8 byte * MAX 40 byte
DEV = PLOT03 PRM = C:¥MCADAM¥PENPLT3.PRM CLS = PEN COM = ″縮小印刷″	* MAX 8 byte * MAX 40 byte

クライアント側

Helix

## 出カパラメーター・ファイル「~.PRM」の設定

1. IMCVOD.TBL」のキーワード IPRM」で指定した出カバラメーター ・ファイル (例: PENPLT2.PRM) をMCADAMフォルダに作成

サンプルファイルをコピーすると便利です。 PRMのサンプルファイルはMC導入ディレクトリー内(例: C:¥mchelix¥HDD)の「SAMPLE」フォルダ内にあります。

- MC Helixの<出力 (PLOT)> 【パラメータ (PARM)】で"出力装置" ダイアログを開く
- 2. 「MCVOD.TBL」のキーワード「DEV」で指定した出力装置名 "PLOT02" をSEL
- 3. [出力パラメーター] をSEL
- 4. 「共通」シート→「出力装置」の"PLT2"をSEL
- 「プロット・ファイルの作成場所」でプロット・ファイル(~.OFI) ファイルの格納場所を指定 (例) Z:¥MCADAM¥PPSPEN2

仮想区画の指定方法は、環境設定ファイル「MCFILE5.SYS」の 設定ページをご参照ください。

- 6. 「プロットサーバーを使って出力する」にチェックを付ける
- 7. [OK] をSEL
- 8. [出力パラメータの保存] をSEL
- 9. [OK] で保存

出力装置		<u>?</u> ×
仮想出力装置名	PLOT02	ОК
出力装置の機種	7°ロッター	キャンセル
		出力パラメーター
		出力パラメータの保存
		<u> </u>

クライアント側

出力パラメーター		? ×
出力装置	PLT2 図面の拡大/縮小 100 🛨 %	OK
出力範囲の調整	調整する 🔍	キャンセル
破線の長さ	3	
矢頭の長さ	4.0 レージョン 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10	
矢視の矢頭の長さ	3.0	
ハッチンケ線の間隔	3	
ハッチンケの線幅	中線	
文字ボックスの線幅	太線	
出力枚数	1	
出力の種類	王元国	
エラー発生時の処理	処理を中止する	
プロット・ファイルの作成場所	Z¥MCADAM¥PPSPEN2 参照	
□ 図面枠のスケールをブロット・テ	ータのスケールに合わせる 🔽 フロット・ファイルを削除する	
▶ プロット・サーバーを使って出ナ	する 🔽 図面枠キーワートを出力する	
PDFファイルの透かし文字とし	<del>70出</del> 力する 	^/⊮7°

Helix



#### 環境設定ファイル「MCFILE5.SYS」の設定

- 1. OSの [スタート] メニュー →「すべてのプログラム」→ 「MICRO CADAM Helix」→「環境設定ユーティリティー」をSEL して起動
- 2. 「環境設定ユーティリティー」の「MCFILE5.SYS」ボタンをSEL
- 3. 「サーバー」のシートをSEL
- 4. クライアントの仮想区画名、サーバーのホスト名、サーバーの実区 画名を設定
- 5. メニューバー [ファイル] →「保存」をSEL
- 6. 「MCFILE5.SYS」を保存して→「環境設定ユーティリティー」を 終了

#### (記入例)

- 仮想区画名:Z(任意の区画名)
- ホスト名: Server1 (プロット・サーバーが稼動するサーバー・マシンのホスト名)
- 実区画: E(サーバー・マシンの実区画)

仮想区画名は、ローカルの区画名とは重ならないようにし てください。 「仮想区画名」と「ローカルの区画名」が重なった場合、 仮想区画名を優先します。 重なったローカル区画名は参照できなくなりますのでご注 意ください。

■ Helix 環境設定コーティリティー ファイル(E) ツール(T) ヘルフ(H)	
MCADAM5.SYS MCFILE5.SYS MCHC5.SYS	MCDF5.SYS
ジステ ザーバー 区画 ファイルの格納場所	│ 共有図形の格納場所 │ 起動時の情報 │ ACCESS │ デーク転送 │未使用子[/ <<>
(23回日かみ、 仮想区画名 Z 又 実区画	▲ NCM C MCX トル、-通貨
l l	設C数(最大 100): 0
- <u>追加</u> <u></u>   置換  尚順余  一 御 し追加 ○ 前 に追加 ○ 前 に追加 ○ 後 に 通 加 ○ 一 一 で 前 に 追加 ○ で 前 に 追加 ○ で 前 に 追加 ○ で 前 に 追加 ○ で 前 に 追加 ○ で 前 に 追加 ○ で 前 に 追加 ○ で 前 に 追加 ○ で 前 に 追加 ○ で 前 に 追加 ○ で 前 に 追加 ○ 一 で 新 し し 加 ○ で 新 し し 加 ○ で 新 し し 加 ○ で 新 し し 加 ○ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	×
-0\$77/1/名形式	ザーバ* ~種別」 で MCW
項目の追加/置換/削除 道加 置換 高明宗	設定数(最大100): 「 」
C:¥MCADAM¥MCFILE5.SYS	MCVOL = C



- 「OSの [スタート] メニュー→「すべてのプログラム」→「MICRO CADAM Helix | → 「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- 2. 「RPD環境設定ユーティリティー」のメニュー・バー[ファイル]→ 「MCPPS5.SYSを開く」をSEL→「MCPPS5.SYS」を開く
- 3. 「RPD関連」シートで、キーワード「server」に指定する値をダイア ログから指定

「待ち行列」ディレクトリーはプロット・サーバーを起動 するまでに事前に作成しておく必要があります。

 (例) server=E:¥PPSPEN1¥\*.OFI/mcrpd/PEN/COM1/9600 server=E:¥PPSPEN2¥\*.OFI/mcrpd/PEN/COM2/19200 server=E:¥PPSPEN3¥\*.OFI/mcrpd/PEN/COM3/38400
 (書式) server=待ち行列/出力ドライバー/プロット・ファイルの種類/

出力装置/通信速度



RPDを使用する場合、プロット・ファイルの種類は必ず"PEN"を指定します。

 キーワード「server」以外のキーワードは、直接システム区画の「¥MCADAM」フォルダーにあるプロット・ サーバー環境設定ファイル「MCPPS5.SYS」を編集してください。 また、編集するキーワードの詳細につきましては、『プロット・サーバー解説書』をご参照ください。
 プロット・サーバーのプロット・ファイル処理順序は、「MCPPS5.SYS」のキーワード「qserch」で指定します。 「qserch=1」: 優先順位の高い待ち行列のプロット・ファイルから出力します。
 「qserch=2」: 各待ち行列の優先順位の高いプロット・ファイルを順次出力します(推奨)。
 ログ・ファイル「MCPPS5.LOG」の出力は、「MCPPS5.SYS」のキーワード「ppslog」で指定します。 「ppslog=yes」で「MCPPS5.LOG」が出力されます。
 「MCPPSD.LOG」は、プロット・サーバーがサービスとして起動された場合に自動的に作成されます。

#### CAD SOLUTIONS Inc.

Helix



## RPD環境設定ファイル「MCRPDn.SYS」の設定

1. 新しいプロッターに使用する「MCRPDn.SYS」を¥MCADAMフォル ダ内に作成

ここでは"MCRPD2.SYS"を作成します。

MCADAMフォルダ内の「MCRPD.SYS」をコピーして使用 すると便利です。

「MCRPDn.SYS」の"n"は「MCPPS5.SYS」のキーワード 「server」で指定されたポート番号「COMn」と同じ番号で作 成してください。 (例) ポート番号がCOM1の場合: MCRPD1.SYS ポート番号がCOM2の場合: MCRPD2.SYS ポート番号がCOM3の場合: MCRPD3.SYS ポート番号がCOM4の場合: MCRPD4.SYS ポート番号がCOM5の場合: MCRPD5.SYS

- 2. OSの [スタート] メニュー→「すべてのプログラム」→「MICRO CADAM Helix」→「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- S. 「RPD環境設定ユーティリティー」のメニュー・バー[ファイル]
   →「MCRPDn.SYSを開く」をSEL→作成したMCRPD2.SYSを開く



RPD10H2821-7/07(-
77代(F) 表示(V) 心7'(H)
MORPOSYS M HOSSIS MOPPSERVS
[2 RPD環境設定1+1/1/[C:YMCADAMIMCR9D1.SYS]     [2 @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @
77/b(F) 9-b(T) 表示(V) ^b/*(H)
1007.021         (207.021
  j² +

サーバー側 MICRO/CADAM

「MCRPD.SYS] ボタン→「出力方式] シート→「コマンドの制御] 4. → 「使用するコマンドの種類」 で出力コマンドをSEL

長尺プロッター出力では、GDI以外の出力コマンドが選択 可能です。

「出力の制御」で、選択した出力コマンドに対応した「出力方式」と 5. 「出力先」を指定 (例) ファイル出力、C:¥MCADAM¥PPSPEN2

「出力方式」と「出力先」の設定については、「第六章 3. 出力コマンドと出力方式の関係」および「第六章 4.出力方 式の設定例(3.の解説) | をご参照ください。

- [出力装置] シート→ [長尺図面の最大値] →最大値を入力 6.
- 7. 「ファイル]→「アプリケーションの終了]で、編集した 「MCRPD2.SYS」、「MCPPS5.SYS」を保存→閉じる

37万方式   出力装置   スタレブー諸報   処理方法   線種   文字   文字線幅   HEE   HE(ペン)   その他	
1722/174/18/88     (伊用する372/1/07/45/8日)     17500県     ア       パクとファイル名     参照     エミュレーカの経別     7500県     ア       デール・372/1/4-名     参照     デ     アンパ(RP)の出力     社営力に成び、ア     社営済海正     マ       デール・372/1/4-名     参照     デ     ア     日     ア     日       ガンとファイル名     参照     デ     所に分(PS)を出力する     出力するEOPコアンド     番店*	
出力の制御 出力方式 77/8出力  ・ 出力先 C¥MCADAM¥PPSPEN2 参照。 [7/7/7 / 91140x10/747-] - 20E7070/911610/777-0-17	
種別     D-SCAN     広告待時間     30     広告待時間     60       試行回販     5       出力時の/作業領域(FTP)     O¥mchelix¥RPD     参照	

RPD環境設定ユーティリティー - [C:¥MCADAM¥MCRPD.SYS] ァイル(E) ツール(エ) 表示(ゾ) ヘルブ(H)		
出力方式 出力法 第77 首報 地理方法 标理 文子 文子标唱	HLE   HLE(ヘン) その12   使用するへつの数 8 マ	
□ A0サイズ × 1189 Y 841 用紙方向 0度 💌	長尺図面の最大長 2000.0	
▼ A2サイズ <sup>*</sup> × <sup>594</sup> Y <sup>420</sup> 用紙方向 <sup>0度</sup> ▼	出力装置の解像度(DP) 400	
✓ A8サイズ <sup>×</sup> X 420 Y 297 用紙方向 0度 ▼     ✓ A8サイズ <sup>×</sup> X 297 Y 210 用紙方向 0度 ▼	I T	
「F回医学県の前端 X方向の移動量 		
Y方向の移動量 0.0		
*1		

Helix





1. 縮小出力設定のポイント



- 1. 出力データサイズにかかわらずA4サイズの用紙に出力する場合 以下の設定により、出力データサイズがA4サイズを超えていても、A4サイズの用紙に縮小して出力することができ ます。
  - 設定ダイアログの場合

「RPD環境設定ユーティリティー」で「MCRPDn.SYS」を開き、[出力装置] シートの[有効] 作画範囲] で以下の設定をします。

: チェックを付け、X=297 Y=210 用紙方向=0度 と入力

(設定例)

- A0サイズ : チェックを外す
- A1サイズ : チェックを外す
- A2サイズ : チェックを外す
  - : チェックを外す

A3サイズ A4サイズ

テキストファイル(MCRPDn.SYS) 編集の場合

(設定例)

RPSIZE0 =	: 指定を無効化する
RPSIZE1 =	: 指定を無効化する
RPSIZE2 =	: 指定を無効化する
RPSIZE3 =	: 指定を無効化する
RPSIZE4 = 297,210,A	: A4サイズの値を設定する



 実際の設定例 以下のように設定した場合の動きを図で解説します。

#### - MCRPDn.SYS

RPSIZE2=594,420,A(・・・A2サイズは、594×420に設定。用紙方向は0度。)RPSIZE3=420,297,B(・・・A3サイズは、420×297に設定。用紙方向は90度。)RPSIZE4=297,210,A(・・・A4サイズは、297×210に設定。用紙方向は0度。)

- 出力パラメーター・ファイル
  - SCL=2 (作画領域に収まるようにスケールをかける)
- プロット・データ

600,420



#### 仮想出力装置テーブル「MCVOD.TBL」の設定

- 1. (システム区画):¥:MCADAMフォルダ内の「MCVOD.TBL」ファ イルを、テキスト・エディタで開く
- 2. 以下の4つのキーワードを設定する
  - DEV:出力装置の名称(任意)を半角英数8文字以内で指定 (例) PLOT03
  - PRM:適用する出力パラメーター・ファイルのパスとファイル 名を指定

(例) C:¥MCADAM¥PENPLT3.PRM

デフォルトでインストールされているサンプルファイルで は、このキーワード「PRM」の先頭に「\*」(コメントア ウト)が付いていますので削除してください。

- CLS: "PEN"または"PRN"を指定します。

RPDを使用する場合は必ず"PEN"を指定します。

- COM:プロッター名など出力装置についてのコメントを指定 (例) "縮小印刷"

二重引用符号で囲って半角英数換算で40文字以内で指定します(2バイト文字使用可能)。

3. ファイルを保存→閉じる

・最大256台の出力装置の設定が可能です。 ・仮想出力装置を追加するには、上記4つのキーワードを コピーして追加してください。

MCVOD.TBL - メモ帳 ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)	
DEV = PLOT03 PRM = C:¥MCADAM¥PENPLT3.PRM CLS = PEN	* MAX 8 byte
DEV = PLOT04 PRM = C:¥MCADAM¥PENPLT4.PRM	* MAX 40 byte * MAX 8 byte
CLS = PEN COM = <i>"</i> イメージ出力"	∗ MAX 40 byte

クライアント側

Helix



#### 出カパラメーター・ファイル「~.PRM」の設定

1. 「MCVOD.TBL」のキーワード「PRM」で指定した出力パラメー ター・ファイル(例: PENPLT3.PRM)を¥MCADAMフォルダに作成

サンプルファイルをコピーすると便利です。 PRMのサンプルファイルはMC導入ディレクトリー内(例: C:¥mchelix¥HDD)の「SAMPLE」フォルダ内にあります。

- 2. MC Helixの<出力 (PLOT)>【パラメータ (PARM)】で"出力装置" ダイアログを開く
- 3. 「MCVOD.TBL」のキーワード「DEV」で指定した出力装置名 "PLOT03" をSEL
- 4. [出力パラメーター] をSEL
- 5. 「共通」シート→「出力装置」の"PLT3"をSEL
- 6. 「共通」シート→ [出力範囲の調整] →"調整しない"をSEL
- 7. 「プロット・ファイルの作成場所」でOFIファイルの格納場所を指定

(例) Z:¥MCADAM¥PPSPEN3

仮想区画の指定方法は、環境設定ファイル 「MCFILE5.SYS」の設定ページをご参照ください。

- 8. 「プロットサーバーを使って出力する」にチェックを付ける
- 9. [OK] をSEL
- 10. [出カパラメータの保存]をSEL
- 11. [OK] で保存

出力装置	?)
仮想出力装置名 PLOT03 I	ОК
出力装置の機種 フロッター	++)/2/L
コント 縮小印刷	出力パラメーター
1 L L L L L L L L L L L L L L L L L L L	出力パラメータの保存
	^ルフ°

出力パラメーター		<u>?</u> ×
共通 プロッター ( フツンター )		
出力装置	PLT3 図面の拡大/縮小 100 📑 🕺	OK I
出力範囲の調整	調整しない 🔍	キャンセル
破線の長さ	2	
矢頭の長さ	3.0	
矢視の矢頭の長さ		
ハッチング線の間隔	2	
ハッチングの線幅	細線	
文字ボックスの線幅	中線	
出力枚数	1	
出力の種類	正式図	
Iラー発生時の処理	処理を中止する	
プロット・ファイルの作成場所	Z¥MCADAM¥PPSPEN3 参照	
□ 図面枠のスケールをプロット・デー	タのスケールに合わせる 🔽 フロット・ファイルを削除する	
☑ プロット・サーバーを使って出力す	する 「 図面枠キーワートを出力する	
▼ PDF7ァイルの透かし文子とし	<b>(出力す</b> る	^/i/7°

#### 環境設定ファイル「MCFILE5.SYS」の設定

- 1. OSの [スタート] メニュー → 「すべてのプログラム」→「MICRO CADAM Helix」→「環境設定ユーティリティー」をSELして起動
- 2. 「環境設定ユーティリティー」の「MCFILE5.SYS」ボタンをSEL
- 3. 「サーバー」のシートをSEL
- 4. クライアントの仮想区画名、サーバーのホスト名、サーバーの実区 画名を設定
- 5. メニューバー [ファイル] →「保存」をSEL
- 6. 「MCFILE5.SYS」を保存して→「環境設定ユーティリティー」を終 了

(記入例)

仮想区画名:Z(任意の区画名)

- ホスト名: Server1 (プロット・サーバーが稼動するサーバー・マシン のホスト名)
- 実区画: E(サーバー・マシンの実区画)

仮想区画名は、ローカルの区画名とは重ならないようにし てください。 「仮想区画名」と「ローカルの区画名」が重なった場合、 仮想区画名を優先します。 重なったローカル区画名は参照できなくなりますのでご注 意ください。

■ Helix 環境設定ユーティリティー ファイル(F) ツール(T) ヘルフペH)	X
MCADAM5.SYS MCFILE5.SYS MCHC5.SYS	MCDF5.SYS
システ ザーバー 区画 ファイルの格納場所	│ 共有図形の格納場所 │ 起動時の情報 │ ACCESS │ デーツ転送 │未使用子( / (♪)
仮想区画名 Z F	
美区画 E	設数(最大 100): 0
日の道加 追加	×
-087 <del>7</del> /4名形式	サーハ <sup>*</sup> ~種別 の MCM
	設定数(最大100):
-項目の追加/置換/削除 _ 追加 _ 置換 _ 置換 _ 削除 _ 削除	×
C:¥MCADAM¥MCFILE5.SYS	MCYOL = C

クライアント側

Helix



#### プロットサーバー環境設定ファイル「MCPPS5.SYS」の設定

- 1. 「OSの [スタート] メニュー→「すべてのプログラム」→「MICRO CADAM Helix」→「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- 2. 「RPD環境設定ユーティリティー」のメニュー・バー[ファイル]→ 「MCPPS5.SYSを開く」をSEL→「MCPPS5.SYS」を開く
- 3. 「RPD関連」シートで、キーワード「server」に指定する値をダイア ログから指定

「待ち行列」ディレクトリーはプロット・サーバーを起動 するまでに事前に作成しておく必要があります。

- (例) server=E:¥PPSPEN1¥\*.OFI/mcrpd/PEN/COM1/9600 server=E:¥PPSPEN2¥\*.OFI/mcrpd/PEN/COM2/19200 server=E:¥PPSPEN3¥\*.OFI/mcrpd/PEN/COM3/38400
   (書式) server=待ち行列/出力ドライバー/プロット・ファイルの種\*
- (書式) server=待ち行列/出力ドライバー/プロット・ファイルの種類/ 出力装置/通信速度

💽 RPD環境設定ユーティリティー -	C¥MCADAM¥MCPPS5.SYS]	_ 🗆 🗙
7711/(E) 1/-1/(E) 表示(V) 1/	J7(⊞) -	
MORED SYS	PPS5SYS	
D00881# 1		
RPU関連 の他		
7 <sup>1</sup> 171-7711の格納先 C-¥M	CADAM#PPSPEN3 参照	
フロット・ファイルの拡張子 OFI		
トゥイパーの種類 mcrp	d	
フロット・ファイルの種類 PEN	<b></b>	
出力装置/ポート COM	3	
通信速度 3840		
	P\$17786/展士 156\。 3	
- 項目の追加/置換/削除	EXALTRA VERY CONTACT OF CONTACT O	
追加 〇前	C#MCADAWPPSPRX2#VDF/mcpd/PEN/C0M2/19200 C#MCADAWPPSPRX2#VDF/mcpd/PEN/C0M2/19200	
C 後に	jêho	
<u> </u>		

RPDを使用する場合、プロット・ファイルの種類は必ず"PEN"を指定します。

 キーワード「server」以外のキーワードは、直接システム区画の「¥MCADAM」フォルダーにあるプロット・ サーバー環境設定ファイル「MCPPS5.SYS」を編集してください。 また、編集するキーワードの詳細につきましては、『プロット・サーバー解説書』をご参照ください。
 プロット・サーバーのプロット・ファイル処理順序は、「MCPPS5.SYS」のキーワード「qserch」で指定します。 「qserch=1」: 優先順位の高い待ち行列のプロット・ファイルから出力します。 「qserch=2]: 各待ち行列の優先順位の高いプロット・ファイルを順次出力します(推奨)。
 ログ・ファイル「MCPPS5.LOG」の出力は、「MCPPS5.SYS」のキーワード「ppslog」で指定します。 「ppslog=yes」で「MCPPS5.LOG」が出力されます。
 「MCPPSD.LOG」は、プロット・サーバーがサービスとして起動された場合に自動的に作成されます。



#### RPD環境設定ファイル「MCRPDn.SYS」の設定

1. 新しいプロッターに使用する「MCRPDn.SYS」を作成

ここでは"MCRPD3.SYS"を作成します。

MCADAMフォルダ内の「MCRPD.SYS」をコピーして使用すると便利です。

「MCRPDn.SYS」の"n"は「MCPPS5.SYS」のキーワード 「server」で指定されたポート番号「COMn」と同じ番号 で作成してください。 (例) ポート番号がCOM1の場合: MCRPD1.SYS ポート番号がCOM2の場合: MCRPD2.SYS ポート番号がCOM3の場合: MCRPD3.SYS ポート番号がCOM4の場合: MCRPD4.SYS ポート番号がCOM5の場合: MCRPD5.SYS

- 2. OSの [スタート] メニュー→「すべてのプログラム」→「MICRO CADAM Helix」→「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- 「RPD環境設定ユーティリティー」のメニュー・バー[ファイル]
   →「MCRPDn.SYSを開く」をSEL→作成したMCRPD3.SYSを開く

	間く			×
Style + 新しいなりバター     Support     S	🕖 🌗 🕨 בארב ארם	ディスク (C:) + MCADAM + 🛛 🔸 😝	MCADAMの検索	2
●         名前 ▲         更新日時         種類         ▲           ●         ●         名前 ▲         更新日時         種類         ▲           ●	整理 ▼ 新しいフォルダー			🛛 🔞
2015/07/09 ファイル フォルダ- メウンロード 2015/07/09 ファイル フォルダ- シケンロード 2015/03/31 ファイル フォルダ- 2015/03/31	📃 デスクトップ 🕒	名前 ▲	更新日時	種類
	3 最近表示した場所	🔑 support	2015/07/09	ファイル フォルダー
⇒ 5/1 ブジリ ● ドキュメント ● ビデオ ● ビデオ ● ビデオ ● ミュージック ● エージック ● MCRPD 5:YS ● エージック ● エージック ● エージック ● MCRPD 5:YS ● 2015/07/21 ● SYS フーパル ● SYS フーパル ● SYS フーパー ● SYS フーパー ● SYS DIS/07/21 ● SYS フーパー ● SYS DIS/07/21 ● SYS DIS		\mu SXF	2015/03/31	ファイル フォルダー
<ul> <li>ドキュント</li> <li>ビグチャ</li> <li>ビグチャ</li> <li>ビグチャ</li> <li>ビグチャ</li> <li>ビグチャ</li> <li>ビグチャ</li> <li>ビクチャ</li> <li>シュージック</li> <li>ベーンジューター</li> <li>ローブリル ディスク (CS)</li> <li>MCRPD 5:YS</li> <li>2015/07/21.</li> <li>SYS ファイル</li> <li>MCRPD 5:YS</li> <li>ロージロ5/07/21.</li> <li>SYS ファイル</li> <li>MCRPD 5:YS</li> <li>MCRPD 5:YS</li> <li>Image: State and the state and the</li></ul>	🛜 ライブラリ	\mu sys	2015/03/31	ファイル フォルダー
● ピグチャ       ● ピグチャ         ● ピデオ       ● ピデオ         ● ミュージック       ● MCRPDSVS         ● ホームグループ       ● MCRPD1SVS         ● ローガル ディスタ (CC)       ● MCRPD2SVS         ● ローガル ディスタ (CC)       ● MCRPD2SVS         ● ローガル ディスタ (CC)       ● MCRPD2SVS         ● NCRPD2SVS       2015/02/12.         SV ウェーター       ● MCRPD2SVS         ● MCRPD2SVS       2015/02/12.         SV ウェーター       ● MCRPD2SVS         ● MCRPD3.SYS       2015/02/12.         SV ウェーター       ● MCRPD3.SYS         ● MCRPD3.SYS       ● MCRPD Files (MCRPD*.SYS) ●	************************************	Jan VMNU	2015/03/31	ファイル フォルダー
■ C-73 → ミュージタク → ミュージタク → ミュージタク → ホームグループ → ホームグループ → エンビューター → ローガル ディスク (S) → ローガル ディスク (S) → ローガル ディスク (S) → MCRPD 5:YS → MCRPD Files (MCRPD *.SYS) → ■ マーイル名(N): MCRPD 3:YS → MCRPD 5:YS → MC	■ ピクチャ	Ja WARMF	2015/03/31	ファイル フォルダー
* ホームグループ     * エムグループ     * エムグループ     * エムグループ     * エムグループ     * エムグループ     * エングューター     * ローガル、ディスク (CS)     * OKCRPD 55YS     * 2015/07/21. SYS ファイル     * MORPDSYS     * 2015/05/28. SYS ファイル     *      *	■ CFA ▲ ミュージック	MCRPD.SYS	2015/07/22	SYS ファイル
<ul> <li>         ・ ムグループ         ・ 、 ングループ         ・ 、 ングルーグ         ・ 、 いらつロウレッ         ・ 、 ングリン         ・ 、 ング         ・ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、</li></ul>		MCRPD1.SYS	2015/08/16	SYS ファイル
Dンピューター     OF / 1/21. SYS ファイル     MORPDS:SYS     2015/07/21. SYS ファイル     MORPDS:SYS     2015/07/21. SYS ファイル     MORPDS:SYS     2015/05/28. SYS ファイル     アアイル名(N): MCRPD3:SYS     MCRPD Files (MCRPD*.SYS)     I	🜏 ホームグループ	MCRPD2SYS	2015/07/21	SYS ファイル
D つうり テイスタ (C)     MORPD CVC 2015/05/28. SYS ファイル     MORPD SYS 2015/05/28. SYS ファイル     マ イル 名(N): MCRPD 3.SYS     MCRPD Files (MCRPD *.SYS)      同く(Q)      キャンセル		MCRPD3.SYS	2015/07/21	SYS 7711
Sub SHAP (2015/05/28 SYS 77 /ル ▼     issc_mc (₩ presa¥ipnesa¥ipnesa Vproje     マアイル名(№): MCRPD3.SYS     MCRPD Files (MCRPD*.SYS) ▼     間<(0) ▼ キャンセル	· □ ダーローカルディフカ(C:)	Nonene State	0015 (05 (00	0/0 7= (1)
ファイル名(M): MCRPD3.SYS ■ MCRPD Files (MCRPD*SYS) ■ 同く(Q) ▼ キャンセル	iasc mc (¥¥ipngsa¥ipngsa¥proje	MCRPD5.SYS	2015/05/28	SYS ファイル 🖵
ファイル岩(M): MCRPD3.SYS MCRPD Files (MCRPD*.SYS) マ 開く(の) マ キャンセル				Þ
間く(0) ・ キャンセル	ファイル名(N):	MCRPD3.SYS	MCRPD Files (MC	RPD*.SYS) -
	,	_	開<(○) ▼	+r>tu



Helix



4. [MCRPD.SYS] ボタン→ [出力方式] シート→ [コマンドの制御]
 → [使用するコマンドの種類] で出力コマンドをSEL

縮小印刷の場合、全ての出力コマンドが選択可能です。

 「出力の制御」で、選択した出力コマンドに対応した「出力方式」と 「出力先」を指定 (例)ファイル出力、C:¥MCADAM¥PPSPEN3

「出力方式」と「出力先」の設定については、「第六章 3. 出力コマンドと出力方式の関係」および「第六章 4.出力方 式の設定例(3.の解説)」をご参照ください。

- 6. [出力装置] シート→ [有効作画範囲] →"A4サイズ"のみ設定
- 7. [ファイル] → [アプリケーションの終了] で、編集した 「MCRPD3.SYS」、「MCPPS5.SYS」を保存→閉じる

RPD環境設定ユーティリティー - [C.¥MCADAM¥MCRPD1.SYS]	
イル(E) ツール(I) 表示(2) ヘルフギ(H)	
CRPDSYS NCHC5SYS MCPPS5SYS	
出力方式  出力装置   スジン7階報   処理方法   線種   文字   文字線幅   HIE   HIE(ヘ*ン)   その他	
nen i Amittike	
使用するコマンドの種類 HP-GL/2+RTL - HP-GLコマンドの制御	
マクト・コマンド シリアリカロ エミュレータの種別 7580条 マ	
「ハスC/FIN-6」 「コビー・コマンド(RP)の出力」	
□ 出力しない ▼ 枚数辨面正 -3 ▼	
- デール・コマント*の付加	
出力するEOPロマンド "AF."	
出力方式 77/ル出力 マ 出力先 C¥MCADAM¥PPSPEN3 参照…	
「パッか・フロトロ状 10F7/P7ー」 「応告行が明確(10F7/F、F1P)ーーーー」」「応告行が明確(2077/Fが一下)ーーーー	
種別 D-SCAN ▼ 応答待5時間 30 応答待5時間 60	
新行回数 5	
出力時の作業領域(FTP) C¥mchelix¥RPD 参照	
1	

サーバー側

■ RPD環境設定ユーティリティ・ ファイル(F) ツール(T) 表示(V)	[C:¥MCADAM3 ) ∧ルフ℃H):	(MCRPD3.SYS]			<u> </u>
ØØØ 🖉 📓 📽 🔎	8				
MCRPDSYS CHC5SYS	MGPPS5.SYS				
出力方式 出力装置   火	/プ情報 処理方法	線種   文字   文字線幅	HIE   HIE(ペン)   その他		
有効作画範囲			使用するへつの数	8	
□ A0972 × 1189	Y 841	用紙方向 0度		0.0	
□ A1#1z* × 841	Y 594	用紙方向 0度		400	
□ A2サイス* × 594	Y 420	用紙方向 0度	出力装置の解像度(DPD) ゴ	1400	
□ A2##7× × 420	¥ 297	田紙方向 ()度			
▼ A4サイス° X 297	Y 210	用紙方向 0度	3		
作画基準占の調整					
×方向の移動量	0.0				
Y方向の移動量	0.0				



## 1. イメージ付き図面の出力設定のポイント



- 1. RPDを使ってイメージ・データを出力する場合、「D-SCAN」、「HP-GL/2+RTL」のプロッター言語を 使用できます。また、「GDI」での出力も可能です。
- 2. それぞれに対するイメージ・データの形式は以下の通りですので、出力する際はイメージ・データやプロ ッター言語が対応しているかをご確認ください。
  - 「 D-SCAN」の場合
    - G4形式のイメージ・データ(モノクロのみ)
  - 「HP-GL/2+RTL」、「GDI」の場合
    - 「Packed Bits」形式のイメージ・データ
    - 「G4」形式のイメージ・データ(モノクロのみ)

「Packed Bits」、「G4」については「第六章 6. 用語解説」をご参照ください。

- 3. イメージ出力の場合、出力パラメーター・ファイルに以下の指定が必要です。
  - 設定ダイアログの場合
    - 1. ファンクション <出力> 【出力装置】で出力を行う装置を選択
    - 2. 【パラメータ】で表示されるダイアログ・ボックスの [出カパラメーター] を選択
    - 3. [プロッター] シートの [イメージ・データを出力する] を選択
    - 4. [イメージ・データの圧縮方法] で「G4」または「Packed Bits」を選択
  - テキストファイル(~.PRM) 編集の場合
    - (設定例)
    - RST = ON : イメージ・データを出力する
    - IMGCMP = G4: イメージ・データを "PackBits" または "G4" 形式で出力する

以下の条件における図面の回転では、イメージ・データだけが回転できないまま出力されますのでご注意ください。

- ・プロット・データに角度が付いている場合
- ・プロッター側で用紙に角度(回転)の設定がされている、またはネスティング機能を利用する場合
# 仮想出力装置テーブル「MCVOD.TBL」の設定

- 1. (システム区画):¥:MCADAMフォルダ内の「MCVOD.TBL」ファ イルを、テキスト・エディタで開く
- 2. 以下の4つのキーワードを設定する
  - DEV:出力装置の名称(任意)を半角英数8文字以内で指定 (例) PLOT04
  - PRM:適用する出力パラメーター・ファイルのパスとファイル名 を指定

(例) C:¥MCADAM¥PENPLT4.PRM

デフォルトでインストールされているサンプルファイルで は、このキーワード「PRM」の先頭に「\*」(コメントア ウト)が付いていますので削除してください。

- CLS: "PEN"または"PRN"を指定します。

RPDを使用する場合は必ず"PEN"を指定します。

- COM:プロッター名など出力装置についてのコメントを指定 (例)"イメージ出力"

二重引用符号で囲って半角英数換算で40文字以内で指定します(2バイト文字使用可能)。

3. ファイルを保存→閉じる

・最大256台の出力装置の設定が可能です。 ・仮想出力装置を追加するには、上記4つのキーワードを コピーして追加してください。

/Ⅲ MCVOD.TBL - メモ帳	
ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) 表示(V) ヘルプ(H)	
DEV = PLOT04 PRM = C:¥MCADAM¥PENPLT4.PRM	▲ MAX 8 byte
COM = "イメージ出力"	∗ MAX 40 byte
DEV = PLOT05 PRM = C:¥MCADAM¥PENPLT5.PRM	* MAX 8 byte
COM = "FONTS出力"	* MAX 40 byte

クライアント側

Helix

MICRO/CADAM



# 出カパラメーター・ファイル「~.PRM」の設定

1. 「MCVOD.TBL」のキーワード「PRM」で指定した出カパラメー ター・ファイル(例:PENPLT4.PRM)をMCADAMフォルダに作成

サンプルファイルをコピーすると便利です。 PRMのサンプルファイルはMC導入ディレクトリー内(例: C:¥mchelix¥HDD)の「SAMPLE」フォルダ内にあります。

- 2. MC Helixの <出力 (PLOT)> 【パラメータ (PARM)】で"出力装置" ダイアログを開く
- 3. 「MCVOD.TBL」のキーワード「DEV」で指定した出力装置名 "PLOT04"をSEL
- 4. [出力パラメーター] をSEL
- 5. 「共通」シート→「出力装置」の"PLT4"をSEL
- 6. 「プロット・ファイルの作成場所」でOFIファイルの格納場所を指定

(例) Z:¥MCADAM¥PPSPEN4

仮想区画の指定方法は、環境設定ファイル 「MCFILE5.SYS」の設定ページをご参照ください。

- 7. 「プロットサーバーを使って出力する」にチェックを付ける
- 8. [プロッター] シート→ [イメージ・データを出力する] にチェック を付ける
- 9. [イメージ・データの圧縮方法] でイメージ・データを出力するとき の圧縮形式を指定

"G4" または"Pack Bits"を選択します。

- 7. [OK] をSEL
- 8. [出力パラメータの保存] をSEL
- 9. [OK] で保存









# 環境設定ファイル「MCFILE5.SYS」の設定

- 1. OSの [スタート] メニュー → 「すべてのプログラム」→「MICRO CADAM Helix」→「環境設定ユーティリティー」をSELして起動
- 2. 「環境設定ユーティリティー」の「MCFILE5.SYS」ボタンをSEL
- 3. 「サーバー」のシートをSEL
- 4. クライアントの仮想区画名、サーバーのホスト名、サーバーの実区 画名を設定
- 5. メニューバー [ファイル] → 「保存」をSEL
- 6. 「MCFILE5.SYS」を保存→「環境設定ユーティリティー」を終了

(記入例)

- 仮想区画名:Z(任意の区画名)
- ホスト名: Server1 (プロット・サーバーが稼動するサーバー・マシン のホスト名)
- 実区画: E(サーバー・マシンの実区画)

仮想区画名は、ローカルの区画名とは重ならないようにし てください。 「仮想区画名」と「ローカルの区画名」が重なった場合、 仮想区画名を優先します。 重なったローカル区画名は参照できなくなりますのでご注 意ください。

PHelix 環境設定2~7/07/~	_ 🗆 🗙
MCADAM5.SYS MCFILE5.SYS MCHC5.SYS MCDF5.SYS	
シンテ サーパー   X画   ファイルの格納場所   共有図形の格納場所   起動時の情報   ACCESS   データ転送  未使	用子( •••
2月日の19月10年度代刊95       道加       重換       ① 後に追加	×
-05774名形式 林2h名 パス	
設定数(最大100): 0	
項目の追加/置換/削除         追加         ○ 前に追加            ご 検」         ○ 夜に追加            一 削除         ●	×
C:¥MCADAM¥MCFILE5.SYS	MCVOL = C



75





## プロットサーバー環境設定ファイル「MCPPS5.SYS」の設定

- 1. OSの [スタート] メニュー→「すべてのプログラム」→「MICRO CADAM Helix」→「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- 2. 「RPD環境設定ユーティリティー」のメニュー・バー[ファイル]→ 「MCPPS5.SYSを開く」をSEL→「MCPPS5.SYS」を開く
- 3. 「RPD関連」シートで、キーワード「server」に指定する値をダイア ログから指定

「待ち行列」ディレクトリーはプロット・サーバーを起動する までに事前に作成しておく必要があります。

 (例) server=E:¥PPSPEN1¥\*.OFI/mcrpd/PEN/COM1/9600 server=E:¥PPSPEN2¥\*.OFI/mcrpd/PEN/COM2/19200 server=E:¥PPSPEN3¥\*.OFI/mcrpd/PEN/COM3/38400
 (書式) server=待ち行列/出力ドライバー/プロット・ファイルの種類

(書式) server=待ち行列/出力ドライバー/プロット・ファイルの種類/ 出力装置/通信速度



RPDを使用する場合、プロット・ファイルの種類は必ず"PEN"を指定します。

 キーワード「server」以外のキーワードは、直接システム区画の「¥MCADAM」フォルダーにあるプロット・ サーバー環境設定ファイル「MCPPS5.SYS」を編集してください。 また、編集するキーワードの詳細につきましては、『プロット・サーバー解説書』をご参照ください。
 プロット・サーバーのプロット・ファイル処理順序は、「MCPPS5.SYS」のキーワード「qserch」で指定します。 「qserch=1」: 優先順位の高い待ち行列のプロット・ファイルから出力します。 「qserch=2」: 各待ち行列の優先順位の高いプロット・ファイルを順次出力します(推奨)。
 ログ・ファイル「MCPPS5.LOG」の出力は、「MCPPS5.SYS」のキーワード「ppslog」で指定します。 「ppslog=yes」で「MCPPS5.LOG」が出力されます。

• 「MCPPSD.LOG」は、プロット・サーバーがサービスとして起動された場合に自動的に作成されます。

# MICRO CADAM

# RPD環境設定ファイル「MCRPDn.SYS」の設定

1. 新しいプロッター用に使用する「MCRPDn.SYS」をMCADAMフォ ルダ内に作成

ここでは"MCRPD4.SYS"を作成します。

MCADAMフォルダ内の「MCRPD.SYS」をコピーして使用すると便利です。

「MCRPDn.SYS」の"n"は「MCPPS5.SYS」のキーワード 「server」で指定されたポート番号「COMn」と同じ番号 で作成してください。 (例) ポート番号がCOM1の場合: MCRPD1.SYS ポート番号がCOM2の場合: MCRPD2.SYS ポート番号がCOM3の場合: MCRPD3.SYS ポート番号がCOM4の場合: MCRPD4.SYS ポート番号がCOM5の場合: MCRPD5.SYS

- 2. OSの [スタート] メニュー→「すべてのプログラム」→「MICRO CADAM Helix」→「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- 3. 「RPD環境設定ユーティリティー」のメニュー・バー[ファイル] →「MCRPDn.SYSを開く」をSEL→作成したMCRPD4.SYSを開く

🕄 開く			×
() レーター・ローカル ラ	ディスク (C:) 🔹 MCADAM 👻 🛛 👻 🛃	MCADAMの検索	<u> 2</u>
整理 ▼ 新しいフォルダー			= - 🔳 🔞
📃 デスクトップ 📃	名前 🔺	更新日時	種類
3 最近表示した場所	鷆 support	2015/07/09	ファイル フォルダー
	🕌 SXF	2015/03/31	ファイル フォルダー
🧊 ライブラリ	🕌 sys	2015/03/31	ファイル フォルダー
۱۰۲×۲۰۰۱ 🔄	i vmnu	2015/03/31	ファイル フォルダー
■ ピクチャ	i warmf	2015/03/31	ファイル フォルダー
□ C) // → ミュージック	S MCRPD.SYS	2015/07/22	SYS ファイル
• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	MCRPD1.SYS	2015/08/16	SYS ファイル
🜏 ホームグループ	MCRPD2.SYS	2015/07/21	SYS ファイル
	MCRPD3515	2015/07/21	STS 77111
◎ コノビューッー	S MCRPD4.SYS	2015/05/28	SYS ファイル
🙀 iasc_mc (¥¥jpngsa¥jpngsa¥proje	MORDE SVS	2015/05/20	<u> </u>
<u> </u>	•		Þ
ファイル名(11): M	CRPD4.SYS	MCRPD Files (MC	RPD*.SYS) 🔻
		開<( <u>0</u> ) ▼	キャンセル

RPD環境設定1-ディリティー     C	×
ファイル(F) 表示(V) ヘルブ(H)	
MCREDSYS IN ICESYS MOPPEDSYS	
RPD環境設定1-ティリティー - [C:¥MCADAM¥MCRPD1.SYS]	
77th(F) 9-h(T) 表示(V) ヘルプ(H)	
MORPDSYS MC ISSYS MOPPS6SYS	
<u>ニンパクエッ </u> 出ノフ展置  スタン7 %操縦  処理方法  綿種   文字   文字線幅   HE   HEE(ハッ)   その他	. Â
11000/0121	
使用するコマンドの種類 HP-GL  HP-GLコマンドの期間	
ヘッダー・コウンドの行力回 エミュレーの対象的 7580元 パンドファン化の合う 参照	-
	_
	<u> </u>
- デール・コマンドの付加 マ 区切りコード(:)を出力する	
「用紙サイズ <sup>1</sup> コマンド(PS)を出力する     「     「用紙サイズ <sup>1</sup> コマンド(PS)を出力する	
出力するEOP37ント* AF:	E
- 地力市制造	
出力方式 沙7№-木*→(RS232C) • 出力先 参照.	.
「ハウット・フロトコ&(TCP/IP) 」 「応答待ち時間(TCP/IP、FTP) 「応答待ち時間(3970・ポート)	
推到 D-SCAN ▼ 応答符与時間 30 応答符与時間 10	
この行回数 5	
kī* (	
出力时句的作業領域(FTP) C¥mchelio¥RPD 参照。	
Upr 1	

サーバー側

MICRO CADAM

- 4. [MCRPD.SYS] ボタン→ [出力方式] シート→ [コマンドの制御]
   → [使用するコマンドの種類] で出力コマンドをSEL
  - (例) D-SCAN  $\rightarrow$ G4 HP-GL/2+RTL  $\rightarrow$ G4またはPacked Bits GDI  $\rightarrow$ G4またはPacked Bits
- 5. 「出力の制御」で、選択した出力コマンドに対応した「出力方式」 と「出力先」を指定
  - (例)ファイル出力、C:¥MCADAM¥PPSPEN4

「出力方式」と「出力先」の設定については、「第六章 3. 出力コマンドと出力方式の関係」および「第六章 4.出力方 式の設定例(3. の解説)」をご参照ください。

 [ファイル] → [アプリケーションの終了] で、編集した 「MCRPD4.SYS」と「MCHC5.SYS」を保存→閉じる

(E) ツール(II) 表示(V) 学 心 「 III」 感 「 P) RPDSYS NDHO5SYS 「 カ方式 」 H力法層 「 スヤノフ	ヘルプ(H) - ?   MCPRS5SYS   特額[約測方法]線類   文字   文字線編   HF     HF(ヘッ)   子の他	
2:小小山田田 実用する122トの種類 「 ペッターコインドの11700 パンとフィル名 デール・コマンドの付加 パンとフィル名		Y
3 <b>カの制御</b> 出力方式 <b>ファイル出力</b> パワク / 4114/8/1917年 / 種別 D-SCAN <u>&gt;</u>	出力先 C¥MCADAM¥PPSPEN4	
出力時の作業領域(FTP)	C¥mchelix¥RPD 参照	



# 第五章 アウトラインフォントでの出力設定例





- 1. 出力パラメーター・ファイル(~.PRM)に以下の指定が必要です。 - 設定ダイアログの場合
  - 1. ファンクション <出力> 【出力装置】で出力を行う装置を選択
  - 2. 【パラメータ】で表示されるダイアログ・ボックスの [出カパラメーター] を選択
  - 3. [プロッター] シートの [フォントの種類] で「コード2」を選択
  - テキストファイル(~.PRM)編集の場合

• PFT=3 :文字はすべてコードで出力する

- 2. RPD環境設定ファイル「MCRPDn.SYS」に以下の指定が必要です。
  - 設定ダイアログの場合

使用する書体

- 1. 「RPD環境設定ユーティリティー」で「MCRPDn.SYS」を選択
- 2. [文字] シートの [アウトライン・フォント集] で以下を指定

(設定例)

- :"明朝体"、"角ゴシック体"、"丸ゴシック体"のいづれかを選択
- フォント・ファイル・パス : アウトラインフォントを導入した場所
- テキストファイル(MCRPDn.SYS)編集の場合

(設定例)

- FONTMC=0 :0=明朝体、1=角ゴシック体、2=丸ゴシック体
- FONTDRV=C:¥FONTS

: アウトラインフォントを導入した場所のパス



3. 出力を実行するマシンの出力用環境設定ファイル「MCHCn.SYS」で指定されている場所に、漢字フ ォント・ファイルが導入されている必要があります。

(注)プロット・サーバー経由で出力する場合は、プロット・サーバーが稼動しているマシンに導入されている必要があります。

#### - 設定ダイアログの場合

- 1. 「環境設定ユーティリティー」で「MCHC5.SYS」を選択
- 2. [ファイル] シートの「パスとファイル名」の「漢字フォント・ファイル」で、漢字フォント・ファイルの 種別、およびパスとファイル名を指定
- (設定例) ベクター・フォント(\$VSSKJ16.FNT)を使用している場合

VSS C:¥MCADAM¥\$VSSKJ16.FNT

- テキストファイル(MCHC5.SYS)編集の場合
   (設定例)
  - KJFNT = VSS,C:¥MCADAM¥\$VSSKJ16.FNT



# 仮想出力装置テーブル「MCVOD.TBL」の設定

- 1. (システム区画):¥:MCADAMフォルダ内の「MCVOD.TBL」ファ イルを、テキスト・エディタで開く
- 2. 以下の4つのキーワードを設定する
  - DEV:出力装置の名称(任意)を半角英数8文字以内で指定 (例) PLOT05
  - PRM:適用する出力パラメーター・ファイルのパスとファイ ル名を指定

(例) C:¥MCADAM¥PENPLT5.PRM

デフォルトでインストールされているサンプルファイルで は、このキーワード「PRM」の先頭に「\*」(コメントア ウト)が付いていますので削除してください。

- CLS: "PEN"または"PRN"を指定します。

RPDを使用する場合は必ず"PEN"を指定します。

 COM: プロッター名など出力装置についてのコメントを指定 (例) "FONTS出力"

二重引用符号で囲って半角英数換算で40文字以内で指定します(2バイト文字使用可能)。

3. ファイルを保存→閉じる

・最大256台の出力装置の設定が可能です。 ・仮想出力装置を追加するには、上記4つのキーワードを コピーして追加してください。





# 出カパラメーター・ファイル「~.PRM」の設定

1. 「MCVOD.TBL」のキーワード「PRM」で指定した出力パラメー ター・ファイル(例: PENPLT5.PRM)をMCADAMフォルダに作成

サンプルファイルをコピーすると便利です。 PRMのサンプルファイルはMC導入ディレクトリー内 (例:C:¥mchelix¥HDD)のSAMPLEフォルダ内にあります。

- 2. MC Helixの <出力 (PLOT)> 【パラメータ (PARM)】で"出力装置" ダイアログを開く
- 3. 「MCVOD.TBL」のキーワード「DEV」で指定した出力装置名 "PLOT05" をSEL
- 4. [出力パラメーター] をSEL
- 5. 「共通」シート→「出力装置」の"PLT5"をSEL
- 6. 「プロット・ファイルの作成場所」でOFIファイルの格納場所を指定

(例) Z:¥MCADAM¥PPSPEN5

仮想区画の指定方法は、環境設定ファイル「MCFILE5.SYS」の設定ページをご参照ください。

- 7. 「プロットサーバーを使って出力する」にチェックを付ける
- 8. [プロッター] シート→ [フォントの種類] で"コード2"をSEL
- 9. [OK] をSEL
- 10. [出カパラメータの保存]をSEL
- 11. [OK] で保存

出力装置		<u>?×</u>
仮想出力装置名	PLOT05	ОК
出力装置の機種	フ°ロッター	キャンセル
		出力パラメーター
FON13E/J		出力パラメータの保存
		^₩7°





# 環境設定ファイル「MCFILE5.SYS」の設定

- 1. OSの [スタート] メニュー → 「すべてのプログラム」→「MICRO CADAM Helix」→「環境設定ユーティリティー」をSELして起動
- 2. 「環境設定ユーティリティー」の「MCFILE5.SYS」ボタンをSEL
- 3. 「サーバー」のシートをSEL
- 4. クライアントの仮想区画名、サーバーのホスト名、サーバーの実区 画名を設定
- 5. メニューバー [ファイル] →「保存」をSEL
- 6. 「MCFILE5.SYS」を保存→「環境設定ユーティリティー」を終了

#### (記入例)

- 仮想区画名:Z(任意の区画名)
- ホスト名: Server1(プロット・サーバーが稼動するサーバー・マシン のホスト名)
- 実区画: E(サーバー・マシンの実区画)

仮想区画名は、ローカルの区画名とは重ならないようにし てください。 「仮想区画名」と「ローカルの区画名」が重なった場合、 仮想区画名を優先します。 重なったローカル区画名は参照できなくなりますのでご注 意ください。

In Helix 環境設定ユーティリティー ファイル(E) ツール(T) ヘルフペH)			_ <u> </u>
MCADAM5.SYS MCFILE5.SYS MCH	C5.SYS MCDF5.SYS		
システ サーバー 【画】 ファイルの格級	内場所│共有図形の格納	- 場所   起動時の情報   ACCESS   データ転返	€  未使用子[ ▶
W <u>とは日かられ</u> 仮想 <u>し面名</u> ない名 「 又 東区画 下	1	たパー種別 ☞ MCW ☞ MCX 設定数(最大 100):	
<u>・ 追加</u> <u>     道加</u> <u>     ご使加</u> 前除			
-0S7ァイル名形式		ザーハ <sup>×</sup> ー種別 ◎ MCW ○ MCX	
		設定数(最大100):	0
-項目の追加/置換/削除 <u>追加</u> 置換 高勝 高勝 高勝 高勝 高勝 高勝 高勝 高勝 高勝 高勝			×
C:¥MCADAM¥MCFILE5.SYS			MCVOL = C

クライアント側

Helix

MICRO/CADAM



- 1. OSの [スタート] メニュー→「すべてのプログラム」→「MICRO CADAM Helix」→「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- 2. 「RPD環境設定ユーティリティー」のメニュー・バー[ファイル]→ 「MCPPS5.SYSを開く」をSEL→「MCPPS5.SYS」を開く
- 3. 「RPD関連」シートで、キーワード「server」に指定する値をダイア ログから指定

「待ち行列」ディレクトリーはプロット・サーバーを起動 するまでに事前に作成しておく必要があります。

- (例) server=E:¥PPSPEN1¥\*.OFI/mcrpd/PEN/COM1/9600 server=E:¥PPSPEN2¥\*.OFI/mcrpd/PEN/COM2/19200 server=E:¥PPSPEN3¥\*.OFI/mcrpd/PEN/COM3/38400
- (書式) server=待ち行列/出力ドライバー/プロット・ファイルの種類/ 出力装置/通信速度

RPD環境設定ユーティリテ	(~ - [C.¥MCADAM¥MCPPS5.SYS]	_ 🗆 ×
pイル(E) ツール(D) 表示(	Ø √17°(H) ·	
🖉 🌮 🥙 📓 🐼 🌶	2 8	
IGRED SYS MOHORS	1 MOPPSESYS	
RPD関連   <mark>の他</mark>		
-サーバー環境の設定		
プロット・ファイルの格納先	C¥MCADAM#PPSPEN3 参照	
ブロット・ファイルの拡張子	OFI	
ドライバーの種類	mcrpd	
プロット・ファイルの種類	PEN	
出力装置/ポート	COM3	
通信速度	38400 💌	
項目の追加/置換/削	該定款(最大 256): 8 除COMMCADAM/PPSPENI#OFI/mcrpd/FEN/COMI/5600 CAMCADAM/PPSPENI#OFI/mcrpd/FEN/COMI/15200	
置換  	○ 後にご思かの	

RPDを使用する場合、プロット・ファイルの種類は必ず"PEN"を指定します。

 キーワード「server」以外のキーワードは、直接システム区画の「¥MCADAM」フォルダーにあるプロット・ サーバー環境設定ファイル「MCPPS5.SYS」を編集してください。 また、編集するキーワードの詳細につきましては、『プロット・サーバー解説書』をご参照ください。
 プロット・サーバーのプロット・ファイル処理順序は、「MCPPS5.SYS」のキーワード「qserch」で指定します。 「qserch=1」: 優先順位の高い待ち行列のプロット・ファイルから出力します。
 「qserch=2」: 各待ち行列の優先順位の高いプロット・ファイルを順次出力します(推奨)。
 ログ・ファイル「MCPPS5.LOG」の出力は、「MCPPS5.SYS」のキーワード「ppslog」で指定します。 「ppslog=yes」で「MCPPS5.LOG」が出力されます。
 「MCPPSD.LOG」は、プロット・サーバーがサービスとして起動された場合に自動的に作成されます。

### CAD SOLUTIONS Inc.

Helix

MICRO/CADAM





# ハードコピー環境設定ファイル「MCHC5.SYS」の設定

- 1. OSの [スタート] メニュー→「すべてのプログラム」→「MICRO CADAM Helix」→「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- 2. 「環境設定ユーティリティー」の「MCHC5.SYS」ボタンをSEL
- 3. 漢字フォント・ファイルの種別、およびパスとファイル名を指定

(例)C:¥MCADAMのベクター・フォントを使用している 場合、入力値は下記の様になります。

VSS、C:¥MCADAM¥\$VSSKJ16.FNT

RPD関連 その他	1
□ ブロッター固有のコマンドを使用する	
□ 塗りつぶす領域の輪郭線を出力しない	
ポート COM5 ■ 通信速度 9600 ▼	
型式 紙のサイズ ヘンの本数	
HP7585B,HP7595B A0以下 8	
パスとドライバー名 参照	
漢字フォント・ファイル VSS ▼ C-WMCADAMW\$VSSKJ16.FNT 参照	
OLEわジェクトの出力解像度 200	
li li li li	





# RPD環境設定ファイル「MCRPDn.SYS」の設定

1. 新しいプロッター用に使用する「MCRPDn.SYS」をMCADAMフォ ルダ内に作成

ここでは"MCRPD5.SYS"を作成します。

MCADAMフォルダ内の「MCRPD.SYS」をコピーして使用すると便利です。

「MCRPDn.SYS」の"n"は「MCPPS5.SYS」のキーワード 「server」で指定されたポート番号「COMn」と同じ番号 で作成してください。 (例) ポート番号がCOM1の場合: MCRPD1.SYS ポート番号がCOM2の場合: MCRPD2.SYS ポート番号がCOM3の場合: MCRPD3.SYS ポート番号がCOM4の場合: MCRPD4.SYS ポート番号がCOM5の場合: MCRPD5.SYS

- 2. OSの [スタート] メニュー→「すべてのプログラム」→「MICRO CADAM Helix」→「RPD環境設定ユーティリティー」を起動
- 3. 「RPD環境設定ユーティリティー」のメニュー・バー[ファイル] →「MCRPDn.SYSを開く」をSEL→作成したMCRPD5.SYSを開く

3間(			×
🔾 🚺 • コンピューター • ローカル	ディスク (C:) + MCADAM +	▼ MCADAMの検索	<b>P</b>
整理 マ 新しいフォルダー			• 🔳 🔞
📃 デスクトップ 📃	名前 ▲	更新日時	種類 🔺
量 最近表示した場所	📔 퉬 support	2015/07/09	ファイル フォルダー
	퉬 SXF	2015/03/31	ファイル フォルダー
🧊 ライブラリ	\mu sys	2015/03/31	ファイル フォルダー
אלעבילי 🖹	🔉 VMNU	2015/03/31	ファイル フォルダー
■ ピクチャ	퉬 WARMF	2015/03/31	ファイル フォルダー
E ビナオ ♪ ミュージッカ	MCRPD.SYS	2015/07/22	SYS ファイル
• ~	MCRPD1SYS	2015/08/16	SYS ファイル
🜏 ホームグループ	MCRPD2SYS	2015/07/21	SYS ファイル
	MCRPD3.SYS	2015/07/21	SYS ファイル
■ Jンビューター	MCRPD4SYS	2015/05/28	SYS 7711
🙀 iasc_mc (¥¥jpngsa¥jpngsa¥proje	S MCRPD5.SYS	2015/05/28	SYS 77111 🔽
<u>•</u>			I I
ファイル名( <u>N</u> ):	MCRPD5.SYS	MCRPD Files (MC	RPD*.SYS) 🔻
		開<(○) ▼	キャンセル

🔁 RPDIGHERÆ1-77/977-	
77 fb(F) 表示(V) / \b/f'(H)	
MCREDSYS M HOSEYS MORPSISYS	
出力方式         (アメーキート(1652320) ・)         出力方式         (アメーキート(1652320) ・)         出力市         ●市           総力         の(万米・キート)         (万米・キート)         (万米・キート)         (万米・キート)         (万米・キート)           総力         の(万米・キート)         (万米・キート)         (万米・キート)         (万米・キート)         (万米・キート)           総力         ・          ・         ・<	
1974 T	

MICRO/CADAM

Helix

[MCRPD.SYS] ボタン→ [出力方式] シート→ [コマンドの制御] 4. → 「使用するコマンドの種類」 で出力コマンドをSEL

FONTS出力の場合、全ての出力コマンドが選択可能です。

「出力の制御」で、選択した出力コマンドに対応した「出力方式」 5. と「出力先」を指定

(例) ファイル出力、C:¥MCADAM¥PPSPEN5

「出力方式」と「出力先」の設定については、「第六章 3. 出力コマンドと出力方式の関係 | および「第六章 4.出力方 式の設定例(3.の解説) | をご参照ください。

- 「文字] シート→ 「アウトライン・フォント集] → 「使用する書 6. 体] で"明朝体、角ゴシック体、丸ゴシック体"のいずれかをSEL
- 7. 「文字] シート→ 「アウトライン・フォント集] → 「フォント・ ファイルのパス]→「参照] ボタンで、「FONTS」をインストール したフォルダーを指定
- 8. 「ファイル】→「アプリケーションの終了」で、編集した 「MCRPD5.SYS」、「MCPPS5.SYS」、「MCHC5.SYS」を保存→ 閉じる

RPD環境設定2-ディジティー - [C-¥MCADAM¥MCRPD1.SYS]	_ 🗆 🗙
MCRPDSYS MCHO5SYS MCPPS55YS	
出力方式 出力法需「2々27時報」処理方法 2.線種   文字   文字総幅   HFF   HFF(^^)   子の例	
使用する172×10種類         HP-GL/2+RTL           パンセンティルを         ●第           パンセンティルを         ●第           ロビーロマンド(RP)の出力         ロビーロマンド(RP)の出力           田辺のしない         火数補正	
- <b>テ-⊁-170ドの村加</b> ハ*えとフィル名 参照。 ■ 用低サイス*:170ド(PS)を出力する 出力するEOP170ド 「AF!"	
出力の制御 出力方式 77行M出力 ・ 出力先 C¥MCADAM¥PPSPEN5 参照…	
Participation         Partiteation         Participation         Partici	
出力時の作業領域(FTP) C¥mchelix¥RPD 参照	
Pr	







# 1. 出力コマンド解説



	RPLANG	出力モード			HTT III				
日ンコイント	設定値	白黒	カラー	ラスター					
HP-GL	0	0	0	×	ヒューレット・パッカード社製ペンプロッター制御用の コマンドです。				
EP8	1	0	0	×	東洋産業社製プロッター(DRASTEM)のコマンドで す。				
D-SCAN	2	0	0	0	セイコーアイ・インフォテック社製プロッター用(D- SCAN)のコマンドです。				
VCGL	3	0	0	×	富士ゼロックス社製プロッター用のコマンドです。				
907/PCI	4	0	0	×	旧Calcomp(現Oc'e)社製プロッター用のコマンドで す。				
HP-GL/2+RTL	5	0	0	0	ヒューレット・パッカード社製プロッター用のコマンド です。				
CGM (Binary)	6	0	0	×	CGM(Computer Graphics Metafile)の「binary」の 形式です。				
CGM (Clear Text)	7	0	0	×	CGM(Computer Graphics Metafile)の「text」形式 です。				
GDI	8	0	0	0	Windows OSに搭載されているグラフィックス処理を 行うプログラムの1つです。このGDI がディスプレイ ドライバーやプリンタードライバーに、その指示を処 理できる形式に変換して各ドライバーに送ることに より、画面表示や印刷が実行されます。				

# 2. カラー出力で使用する色の定義方法



出カコマンド	RPLANG	RPCTYPE設定值				
	設定値	0	1	2		
HP-GL	0	出力不可	出力不可	出力不可		
EP8	1	0	×	×		
D-SCAN	2	0	0	×		
VCGL	3	0	×	×		
907/PCI	4	×	0	×		
HP-GL/2+RTL	5	×	0	0		
CGM(Binary)	6	出力不可	出力不可	出力不可		
CGM(Clear Text)	7	出力不可	出力不可	出力不可		
GDI	8	出力不可	出力不可	出力不可		

0

1

2

(注)×は指定不可の意

RPCTYPE = 設定値

(色の定義方法)

- 出力色データ定義ファイルを使用して色番号を決定(テーブル参照方式)
- RGBから直接計算して色番号を決定(3原色算定方式)

ペン番号の色を線幅に変換して出力する

(色に適応する線幅はキーワード「RPCPWT」で指定します)

# 3. 出力コマンドと出力方式の関係



		MCRPDn.SYS キーワード「RPLANG」(出力コマンド)									
MCRPDn.SYS		HP-GL	EP8	D-SCAN	VCGL	907/PCI	HP-	CGM	CGM	GDI	
キーワード「RPORT」	1						GL/2	(Binary)	(Clear		
(出力方式)							+RTL		Text)		
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	
シリアル・ポートへ出力	0	0	×	×	×	×	×	×	×	×	
シリアル・ポート及び ファイルへ出力	1	0	×	×	×	×	×	×	×	×	
ファイルへ出力	2	0	0	0	0	0	0	0	0	×	
TCP/IPソケットへ出力	3	O(注)	0	0	×	×	0	×	×	×	
スプールへ出力	4	0	0	0	0	0	0	×	×	0	
FTP出力	5	O(注)	0	0	0	0	O(注)	×	×	×	

対応していない出力機種があります。

 出力方式および出力先については、「MCRPDn.SYSのキーワード「RPOPT」で設定します。
 RPDではコマンドによりサポートされている出力方式が異なります。サポートされている コマンドと出力方式の詳細については、『ラスター・プロッター・ドライバー解説書』の 「1.2 使用コマンドと出力方式」をご参照ください。



1	出力方式が 1]の時、または出力方式が 2]で RPLANG = 0]の場合					
	HP-GL コマンド・ファイルの出力先のパスを指定します。					
	(例)RPOPT=1;C:¥CSC¥MCADAM					
2	出力方式が「2」で、「RPLANG = 1 ~ 7」の場合					
	各コマンド・ファイルの出力先のパスを指定します。					
	(例)RPOPT=2:C:¥CSC¥MCADAM					
3						
	イーサーネットのホスト名とサービス名を"/ホスト名/サービス名"の形式で指定します 指定するホスト名 サービス名は					
	TOD/ID の理情設定ファイルに登録されていることが前提とたいます					
	TOF/IF の境現設在ファイルに豆螺Cイレビいることが前近になります。 (例) PPOPT-2./mlathau1/mlathau1					
4	<u> ロノノス い 4 ] の 場合</u>					
	フリント・キュー名(出力ホート名、フリンター名ともいう)を指定します。					
	(例)RPOPT=4;printer1					
5	出力方式が「5」のとき					
	プロッターのホスト名と手順ファイル名を、"/ホスト名/手順ファイル名"の形式で指定します。手順ファイルは、ファイル名を半角					
	文字を使って8.3 形式で指定し、「MCRPDn.SYS」と同じ所に作成してください。					
	(手順ファイルの例)					
	Open hostname ←open ホスト名					
	userftpuserftppass $\leftarrow$ user $\neg - tt - tD \sqrt{3} \nabla - b$					
	$\frac{1}{1} = \frac{1}{1} = \frac{1}$					
	- 「hastasma」 「ftanasa」 / t み 力例です					
	・ nostname」、「ttpuser」、「ttppass」はヘリがしょ。 エフレタは、、、フーイルに記点されたプロック、クエフレタズナ					
	・openホスト名は、hostsノアイルに設定されたフロッターのホスト名です。					
	・ユーサーID、バスワードは省略できる場合があります。					
	(例)RPOPT=5;/plotter1/plotter1.ftp					





# 6. 用語解説



- G4
  - FAXは、情報を画像データとして読み取って画素(ドット)レベルに分解し、個々の画素を電気信号に変換することで、公衆回線を利用したデータデータ伝送を可能にしている。受信されたデータは、電気信号から画素情報へ変換され、1個の画像データとして再現され、印刷される。
  - 一般に、FAXを送受信するには専用の装置を用いるが、FAX通信ソフトを用いればパソコンからFAXを利用することもできる。パソコンからアナログ回線でFAX通信する「G3」(Group 3)規格や、同じくISDN回線でFAX通信する「G4」(Group 4)規格などがある。FAX通信ソフトの代表的なものとしては「まいとーく」などがある。
- Packed Bits
  - パックビット圧縮方式は、一般的な用途の単純なバイト指向のランレングス・エンコーディング方式として、
     Apple Computer社が開発しました。 この方式はPICTイメージ・フォーマットで使用され、TIFFイメージでもサポートされています。 他のランレングス・エンコーディング方式と同様に、この圧縮形式を非常に複雑なイメージに使用すると、データ・サイズが大きくなる場合があります。

(注) ランレングス符号化とは、主に画像データの圧縮に用いられる符号化方式の一種で、連続する同一の値を「色×回数」という列の長さ(run-length)の情報に置き換える方式のことである。



※当資料内の文章・画像・商標等(以下、「データ」)に関する著作権とその他の権利は、弊社または原著作者、その他の権利 者のものです。企業等が非営利目的で使用する場合、個人的な使用を目的とする場合、その他著作権法により認められている場 合を除き、データは弊社、原著作者、その他の権利者の許諾なく使用することはできません。

※データ等のご利用またはご利用できなかったことによって生じた損害については、弊社は一切の責任を負わないものとし、 いかなる損害も補償をいたしません。

※掲載されている内容は2020年6月時点のものです。内容は、事前の予告なしに変更することがあります。

MICRO CADAM、MICRO CADAM Helix は、株式会社CAD SOLUTIONSの商標です。 他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。